
仮面の決闘者

ガルGC

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面の決闘者

【Nコード】

N8167V

【作者名】

ガルGC

【あらすじ】

目が覚めたら……知らない世界だと？現実はどうでもいい、この世界で私は新たな人生を歩んでやる！原作なんて関係ねえ！原作キャラ？無視だ、無視！時間の無駄だ！私は私のやりたいことをやってやる！！（主人公はこんな人ではありません）

第1話 下準備（前書き）

第二作品目：今度は遊戯王です！

バカテスと比べて遅く投稿しますので、それでは……………どうぞ！

第1話 下準備

side???)

目が覚めると私は知らない部屋にいる

部屋を見渡すとベッドに冷蔵庫など必要最低限の物しか見えない、
一人暮らしか？

……やはりここは知らない場所だ、記憶にない

「ここは……？………！」

ベッドから体を起こすと、驚いたことに体が小さくなっている

いや、むしろ幼いと言えば正しいのか？髪はずっと切っていないの
か腰まで伸びており

色が黒い、顔は中立な感じかな？相変わらず自分が男か女か見分け
がつかない顔だ

「だいたい14か15か？」

記憶の中では今の身体は14か15歳のはずだ

今の年齢は18だったのに3、4歳は若返っている、服は上下真黒
な格好………怪しいな

ズボンのポケットの中にはサイフと携帯電話があったので取り出し
てみる

「所持金はいいとして………」

携帯のメールボックスを見ると

“君もデュエル・アカデミアへ行こう！詳細は以下の説明を（パタンッ）”

「……………」

……………デュエル・アカデミア？……………何それ？

以下の説明を読んでみるとデュエリスト養成学校だと？そんなもん養成してどうする

しかし……………

「なんとなくわかったけど、ここって……………」

遊戯王の世界か？しかもGXの方かな？モーメントなんてないし遊戯王が……………あんまり戦う相手いなかったしな、正直相手が弱いしな

この世界だったら、元の世界よりも迫力はあるだろうしな

「そうと決まったら……………」

さっそく入学手続きだな……………

……………

……………

……………

……………

：

あれから一年が過ぎました
え？早いって？あの後わかったけど、私14歳だったので一年待たないといけなかった
ちなみにカードは近くのトランクの山に大量にあった

シンクロ……！エクシーズ……！と、使いたかったが……残念
上級モンスターと融合モンスターになっておりました………使いにくいじゃないか
出し方や召喚に制限があるので大量に入れることが出来ない

この世界だと、まだ融合デッキで枚数制限ないんだよ？元の世界だと考えられないね
一つ言えばアニメオリジナルカードもあったな、使うかどうかは別だけど（使います）
この一年のほとんどがカードの整理をしてたんだよ？カードの枚数多すぎ………

禁止・制限カード………緩いねー
相手に無条件でダメージを与えるカードが禁止なんだよ？ライフが4000だしね
ファイアーボールはダメだけど、キャノン・ソルジャーはオッケー
って感じだよ

そうそう説明を忘れてたね、元シンクロカードの召喚条件はこんな風になっているよ
例としてスターダスト・ドラゴンだと『風属性+ドラゴン族』となっている

他にもパワーツール・ドラゴンだと『地属性+機械族』となってお

ります

あと、エクシーズモンスターの召喚条件は変わらないよ
融合モンスター扱いだけど『このカードにはレベルはない』となっ
ているので問題ない

……………デュエルディスクがしつかりと反応してくれるのが心配だ

それと、私は使うデッキは特に決めてないから
この世界ではテーマデッキとかファンデッキを使っていきたいと思
うし

下手にガチデッキだとももしろくないしね

あつ、そういえばチューナーの扱いを忘れてた

チューナーはシンクロのようにレベルを合わせなくても、融合モン
スターの条件

に当てはまれば、その融合モンスターを召喚できる

例えば、チューナーモンスターでは王道のジャンク・シンクロン
ジャンク・シンクロンを場にだし効果で墓地からスターダスト・シ
ヤオロンを出した
とする、この二体を墓地に送ることでレッド・デーモンズ・ドラゴ
ンを融合召喚できる

すごく便利だね……………使えるのは私しかないんだよ

この世界はまだ放送したばかりのカードしかないから、プレイが遅
いんだよ

神のカードを持っているが使う気はない、使ったら大変なことにな
りそうだから

邪神とかは使うかもしれない、相手がよほど気に入らない人なら

いろいろと話すぎたけど私は今受験場にいるんだよ
いやゝ人が多いね……………この内の何人かは落ちるんだよね
最初は筆記試験そのあとは実技試験、マイナーだね

『おい……………誰だよアイツ？』

『やだ……………怖い』

周りの受験生は私を見て離れて行く

私は顔に仮面を付けている、真っ白で殆ど見えないんじゃない位の
仮面だ

なんで仮面を付けているかだって？素顔を見られるのは嫌いなんだ
この顔を見てバカにするやつがよくいたのでこうして仮面で顔を隠
している

……………別に私がどんな格好をしようといいじゃないか

『それでは、筆記試験を始めますので準備をして下さい』

筆記試験か……………原作はあまり覚えていないがあまり関わる気はない
関わったらメンドクサイことになりそうだし、確か原作の誰がこの
の筆記で

一位をとるんだっけ？名前は忘れた、覚える気はないし

『では、始めて下さい』

さて、一部は空白で出して微妙な順位でも出しておくか

第一問

『自分のモンスターが相手モンスターに攻撃しました、攻撃力はこちらが上で
相手モンスターを上回っています、相手モンスターを攻撃したらどう
なりますか?』

これは簡単だ、破壊され上回っている攻撃力分のダメージを相手が
受ける

第三問

『バトルフェイズ中に自分はリビングデットの呼び声でモンスター
を特殊召喚しました

このモンスターは攻撃出来ますか?』

これも簡単、攻撃できるつと

このような問題があといくつか出てきたが一部わざと間違え筆記試験
を終えた

.....

.....

.....

.....

...

筆記試験は受かったよ、あんなの簡単だよ

受験番号は……………11番、そろ目だけ間違えすぎたな

実技試験の日

余裕を持って到着、とりあえずフィールドを見たかったし

辺りを見渡すというね……………原作キャラが

金髪のキノ……………もとい、クロノス先生がいるのでGXの世界であつてみたいだ

受験場はブロック毎に別れており、1〜や20〜などその番号内のブロックで戦うみたいだ、……………メンドクサ！

『受験番号11番の榊戸悠さん、決闘場に来て下さい』

やつと呼ばれたか、ちなみに私の名前は榊戸悠^{さかきどゆう}だ

さて、決闘場に向かう途中でもまた誰かが怯える、もういいって

決闘場に着くとサングラスを掛けた試験官がいる

怪しくない？人のこと言えないけど、私はサングラスじゃなくて仮面だし

「君が受験番号11番かい？」

この仮面をみたら向こうは驚いたみたいだ

「11番の秋山悠です、仮面については触れないでください」

「わかった、それでは」

「^{デュエル}決闘！」

「先攻は君からだ」

「わかりました、ドロー」

さて、どうするかな？手札は……………これは酷いな

「私は大盤振舞侍を攻撃表示で召喚し、カードを三枚セットターンエンド」

流石はソリッド・ビジョンすごいな……………

私が大盤振舞侍を召喚すると会場から笑い声が聞こえる

うるさいな、こいつの効果は意外と使えるんだよ？それがわからないのか？

「私のターン、ドロー！私は「畏カード発動」畏だと！？」

何故驚く？

「私は畏カード、攪乱作戦を発動

相手は手札をデッキに加えシャッフルし元の枚数分ドローする」

「くっ……………！」

どうやらキーカードを持っていたみたいだ、関係ないけど

「シャッフルし……………ドロー！」「畏カード発動」またか！？」

「罠カード、無効を発動

カード効果でドローしたカードをお互いに確認し墓地に送る」

「な、なんだと!？」

試験官の手札には攻撃力の高いモンスターばかり、ビートか

「ターンエンドだ」

手札も無いからしかたないけど

「私のターン、ドロー」

私はモンスターをセットし、モンスターで直接攻撃ダイレクトアタック

効果発動、相手は手札を7枚になるようにドローする」

「ドロー!」

「私はカードを一枚セットし、魔法カード、手札抹殺を発動
お互いに手札を全て墓地に送り、捨てた枚数分ドローする」

相手は7枚で私は0枚だ

「また、ドローか……………ドロー!」

「私はさっき伏せた魔法カード、太陽の書を発動

私はセットしたモンスター、メタモルポットをリバースする

効果発動、手札を全て墓地に送り、手札が5枚になるようにドローする」

「手札がまた墓地にデッキがどんどんと……………まさか!」

「ご名答、これはデッキ破壊だ」

いまごろ気付いても遅いけど

「私は手札が5枚になるようにドローする、ドロー
私はカードを三枚セットし、ターンエンド」

「くっ、私のターン、ドロー私はゴブリン突撃部隊を召喚し攻撃だ」

「速攻魔法、皆既日食の書を発動」

「な、なんだそれは？」

この世界にはまだないんだっけ

「このカードの効果によって、場のモンスターすべてを裏側守備表示にする」

「なんだと！？くっ！私はターンエンドだ」

「エンドフェイズ時、相手モンスターは表側攻撃表示になり
そのモンスターの枚数分相手はドローする」

試験官は無言で1枚ドローする

「私のターン、ドロー
私はモンスターをセットし、カードを一枚セットしてターンエンド」

「私のターン、ドロー！」

ゴブリン突撃部隊を召喚だ、二体で攻撃！」

「罨カード発動、和睦の使者に裁きの光を発動

効果によって私のモンスターは破壊されず、ダメージを受けない
さらに私のモンスターは表側守備表示になる」

「なに！？」

私のセットモンスターは……………

「メタモルポットの効果とニードルワームの効果を発動

手札をすべて墓地に送り、送った枚数分ドローし

ニードルワームの効果で相手はデッキからカードを5枚墓地に送
る」

「わ、私のデッキが……………」

可哀想に……………残りのデッキがあと3枚なんて、追い詰めてあげよう

「再び速攻魔法、皆既日食の書を発動

効果はさっき言ったのもう言わない」

試験官の顔が絶望に染まっている

「私はターンエ……………」

「さらに罨カード、強欲な贈り物を発動

相手はカードを二枚ドローする」

「……………」

無言で二枚ドローする試験官、周りの騒ぐ声がなくなったじゃないか

「ターンエンド」

「エンドフェイズ時に相手のモンスターは表側攻撃表示になり
その枚数分ドローする、ドローしてください」

「ドロー……………できない」

それもそうだ、デッキの枚数は1枚
もしモンスターを召喚しなかったら……………それでも、結果は変わら
ないな

「ありがとうございます」

「……………君の勝ちだ、結果は後日連絡される」

試験官の顔はまだ真つ青だな、そんなに嫌いか？デッキ破壊？
これでも手を抜いたのに……………ガチのデッキ破壊はもっと早
いよ

試験が終わったあと暇だったので遊城十代の決闘を見ておく
やっぱ遅いね、HEROデッキならもっとうまく回せるだろ
エアーマンや沼地の魔神王も入ってなさそうだしプリズマー入れるよ

見ていてもつまらないので、その場を後にする

そして数日後、私の元に合格通知が届いた

さて、デュエル・アカデミアか………楽しませてくれよう？

第1話 下準備（後書き）

主人公はちょっと暗い過去を持っています

あと、デッキはランダム作者の気・ま・ぐ・れ♪

いもので、いらつとした人……すみません

第2話 入学…………からの？（前書き）

連続投稿！

今回も主人公は大暴れ、いったいどうなることやら…………

第2話 入学…………からの？

（side悠）

私こと榊戸悠は合格通知を貰い、今はデュエル・アカデミア行きの船に乗っている

『受験番号11番 榊戸悠 合格

所属 オシリスレッド』

「……………別にいいけどさ」

オシリスレッドか……………赤よりも青の方が好きなんだけど
オベリスクブルーは無理でもライエローにはなりたかった
あの時デッキ破壊を使わずにビートダウン使えばよかったかな？

デュエル・アカデミアにおいて男子生徒は成績によってコースが編成される

高等部編入組で成績の悪い生徒はオシリスレッド、逆に優秀ならライエロー

そして中等部から上がった優秀学生たちはオベリスクブルーとなっている

女子は成績に関係なくオベリスクブルーに入る

ガクンッ

「……つつぷ」

やべえ、急に船が揺れて酔いそうになった
乗り物には強いんだけど……急に揺れないで欲しい

しばらくして、デュエル・アカデミアに到着

入学式、鮫島校長の話があるが……どうでもいいので無視します

そして、やって来ましたレッド寮！

……アニメで見て思ったが本当にボロいな
とりあえず自分の名前が書かれている部屋に向かう

部屋の中は……以外に綺麗だな

二人部屋みたいだが私の名前しか書いてなかった

『ここだここだ、ここが俺たちの部屋だ』

『一緒に部屋だね』

外から遊城十代と……なんだっけ？名前忘れた

二人の声が聞こえたが……まさか私の部屋の隣か！と思ったが違
うみたいだ

二人の声が大きく私のいる一階の部屋まで聞こえていただけみたいだ

ここにいると何か巻き込まれそうだな……学園に向かうか

適当にデッキを持って部屋を後にする、そこに学園に向かう途中……

……

「おいっ、そこのお前」

いきなり声を掛けられた、だけど無視する

「待てよ！」

しかし、そこに行っても「おいっ！」特にやることなん「おいっ！」
てないし

これだったら部屋に籠って「おいっ、聞こえないのか！」デッキ作
りでもすれば
よかったかな？「おいっ！」……………うるさ！

「おいっ！」

今度は肩を掴まれてしまった、無視できないじゃないか

「……………何ですか？」

振り向いたら、そこには青い制服を着た人が三人いた
青ってことはオベリスクスブルーか？何で私に話しかける？

「お前、１１番だよな？」

「……………そうですが」

その中の一人に、確か万丈目だっけ？何故ここにいる？

「お前が使っていた珍しいカードを万丈目さんに渡せ！」

「お前が使っていても意味がないんだよ！」

喋るな、付き添い１と２

「なるほど、要するに私が珍しいカードを持っていたから渡せと言いたいのか？」

「そういうことだ、お前のカードを渡してもらおう」

「だれが素直にカードを渡すか」

普通に考えて渡す奴なんていないだろ

「てめえ、だったら俺とデュエルしろ！」

付き添い1が言う、だが……

「断る」

「『なんだと！？』『』」

驚く三人、だって時間の無駄だから

けど後で何か言われるのは嫌だしな、しかたがない……

「やっぱり受けて良いですよ」

「どっちだよ！」

「三人同時でも別に良いですよ？どうします？」

順番に一人ずつやるのは時間が掛かってしまうので、一気に倒したい

「レッドの分際で……！」

「万丈目さん、俺たちだけでやりますので見てて下さい」

「……わかった、見ててやろう」

万丈目抜きか……別にいいけどさ

ちなみにターンは私↓付き添い1↓付き添い2の順番だ

「後悔するなよ！」

「いまならカードを渡せば許してやるぞ？」

無視、雑魚に力の差を見せてやろう

今回は超パワーのビートダウンデッキだ

「『決闘！』」
デュエル

「私のターン、ドロー」

このカードは自分の墓地にモンスターが存在しない時、手札から特殊召喚する

ことが出来る、私は手札からガーディアン・エアトスを特殊召喚する

さらに手札からトレード・インを発動、手札の神獣王バルバロスを墓地に送り

二枚ドローする、私は苦渋の選択を発動、デッキからカードを五枚選択し

相手はカードを一枚選択しそれを私の手札に加え、残りを墓地に送る

私はゾンビキャリア×2と可変機獣ガンナードラゴン×2とグロ
ーアップ・バルブを

選択する、選択するのは付き添い1！あんだだ！」

「付き添い1じゃねえ！俺はガンナードラゴンを選択する！」

バカな奴め

「他は墓地に送り、手札をデッキの一番上に戻して

墓地のゾンビキャリアを特殊召喚する、手札から、私は生還の宝札を発動

墓地からモンスターが特殊召喚された時、三枚ドローする」

「三枚もだど！？」

いちいちリアクションのうるさい奴だ

「さらに私はモンスターゲートを発動する、ゾンビキャリアを生け贄にデッキから

モンスターが出るまでカードをめくり、モンスター以外を墓地に送る

私はゾンビキャリアの効果で戻したガンナードラゴンを特殊召喚する

カードを二枚セットしターンエンドだ」

「長いことプレイしやがって、俺のターン、ドロー！

俺は切り込み隊長を召喚！さらに効果で切り込み隊長を特殊召喚！ターンエンドだ」

切り込み隊長のロックね……………うざいんだよなアレ

「俺のターン、ドロー！」

俺は暗黒ステゴを攻撃表示で召喚し、カードを一枚セットしてターンエンドだ」
ブラック

普通だな、そこは守備表示で出さないと攻撃を誘っているようにしか見えないぞ？

「私のターン、ドロー」

私は墓地のグローアップ・バルブの効果でデッキの一番上を墓地に送り

墓地から特殊召喚する、生還の宝札の効果でデッキから三枚ドローする」

墓地に行ったのはゴーズか……この状況では使えないのである意味良かった

「私の墓地にゴーズ、ゾンビキャリア、ガンナードラゴンの闇属性のモンスターが

三体いるので手札からダーク・アームド・ドラゴンを特殊召喚、効果を発動する

墓地のゴーズとガンナードラゴン、ゾンビキャリアをゲームから除外し伏せカードと

切り込み隊長、暗黒ステゴを破壊する」
ブラック

「俺の伏せカードが……………」

伏せカードは攻撃の無力化だと？暗黒ステゴを攻撃表示にする意味がないだろ
ブラック

「私はグローアップ・バルブを生け贄に軍神ガープを召喚する、コイツがいる限り

フィールド場のすべてのモンスターは攻撃表示となり、表示形式の変更が出来ない」

別に出さなくてもよかったけどね

「さらに私は鳳凰の羽を発動し、手札を一枚墓地に送り墓地のカードをデッキの

一番上に戻す、私はいま捨てたカードをデッキの一番上に戻し魔法カード

モンスター・スロットを発動する」

「『モンスター・スロット?』」

「モンスター・スロットは墓地のモンスターをゲームから除外しデッキから

一枚カードをドローし、そのカードが除外したカードと同じレベルなら特殊召喚を

することが出来る、私はバルバロスをゲームから除外し鳳凰の羽の効果で戻した

獣神機王バルバロスUを特殊召喚し、愚鈍の斧をバルバロスUに装備する

バルバロスUの効果は無効になり、攻撃力を1000ポイントアップする」

「『攻撃力が4800だ?!?』」

「お前のデッキはデッキ破壊じゃないのか!」

万丈目が問いかけるが無視

今の私の場はガンナードラゴン、ガープ、ガーディアン・エアトス

ダーク・アームド・ドラゴン、愚鈍の斧を持ったバルバロスU rの五体がいる

ソリッド・ビジョンはすごいな……かなりの迫力だぞ

「ガープで切り込み隊長を攻撃」

ガープが切り込み隊長を爪で攻撃し破壊する

「ガンナードドラゴンとダーク・アームド・ドラゴンで付き添い1にガーディアン・エアトスとバルバロスU rは付き添い2に直接攻撃」
ダイレクトアタック

ガンナードドラゴンはキャノンでダーク・アームドは爪で攻撃しガーディアン・エアトスは羽を飛ばし、バルバロスU rは斧を振り回している

「「ギヤアアアアアアアアっ!!」」

ライフポイントが0になりました

「まったく、学園に行く気がなくなった……しかたない、部屋に戻るか」

万丈目はどこか啞然としているし、ほっとけば付き添い1と2がなんとかするだろう

……

……

……

……

…

そして、夜の歓迎会

食堂では皆騒いでいる、浮かれているのは分かるがうるさい
私が食堂に入ると急に静かになった、大方予想はつくけど……

『アイツって確か11番じゃなかったか？』

『試験官をノーダメージで倒した奴だろ？何で此処にいるんだ？』

周り何か言っているが無視、私は空いている席に座る

『俺、実はさっき見たんだけど』

『ん？何を見たんだ？』

『アイツ朝、オベリスクブルーの二人相手に無傷で勝利してたぞ』

『マジかよ！？』

あの決闘^{デュエル}を見てた奴がいたのか

「なあお前、決闘^{デュエル}強いんだろ？俺と勝負してくれよ！」

「あ、兄貴、ダメっすよ今は歓迎会の最中なんすから」

げっ！何で原作キャラが目の前の席に座っているんだよ！

「なあゝ頼むよ？俺と決闘^{デュエル}してくれよ？」

あーもうっ！決闘、決闘とうるさいからこの主人公は嫌いなんだよ！

「君たち？ちよつと静かにしてほしいんだけどニャー」

「ん？あんた誰だれだよ？」

「寮長の大徳寺だニャー、授業では錬金術を担当しているのニャー
それでは皆さんよろしくニャー、挨拶はこれぐらいにしておくニャー」

寮長の挨拶が終わり、皆食事を始める

遊城は私に話しかけてうるさいので、私は一人部屋に戻り料理を食べていた

味は美味しいけど、もう少しおかずを増やしてほしいな

食事を終え食器を食堂に返して

しばらく部屋でのんびりとデッキ作りをする

さっき使ったビートダウンは事故率がまだ高い

もう少しドローカードを入れて、特殊召喚カードを増やすか
大量展開型にするか……………悩むな

P i i i i i i P i i i i i i P i i i i i i

そんな時に、ビデオメールが送られた

送り主はなんとなく予想できるが、確認すると……やはり万丈目がビデオメールの内容は……

『やあ、受験番号11番

デュエルフィールド

午前0時、決闘場で待っている

お互いにベストカードを賭けた、アンティルールで決闘だ

デュエル

勇気があるなら……来るんだな』

午前0時ね、行く気はないな

だいたいアンティルールは校則違反だ

このメールを証拠として先生に見せるか？

そうすれば万丈目は退学処分になるか

けど、アイツって万丈目グループだしもみ消しそうだな

そうしたら私が狙われそうだから止めておくか

午前0時になったか今頃どうなっているのやら

……あれ？そういえばフレイム・ウイングマンが炎を出す話だった？

それは見たいので学園に向かう

フレイム・ウイングマンはあれでも風属性なんだぞ？

なのに炎を出すとか……海馬コーポ・レーションもバカだな

さて、ガードマンに見つからないように決闘場に行くか

今の格好だって全身真っ黒だ、黒は好きなんだよね……青より

決闘場に到着し、私は観客席から覗く、見つかったら面倒だ

今の状況は……？

「デュエル決闘は99%の知性が勝敗を決する

運が働くのはたった1%にしか過ぎない」

万丈目が何か熱く語っているね

いくら知性があっても事故ったら負けるぞ？運もなくては勝利することは難しい

「だったら俺はその1%に全てを賭ける！俺のターン、ドロー！」

遊城の顔に笑みが見える、しかし……

「ガードマンが来るわ！アンティールは校則で禁止されているし時間外に施設を使っているから退学かもしれないわ！」

知っているのなら最初から止めるよ！

遊城はそんなことを知らなかったのか慌てている、校則ぐらい知っておけ！

万丈目は付き添い1と2を連れて帰り

遊城は、確か……天上院と丸藤でよかったけ？は遊城を連れていく施設の電源は落ちガードマンが来る、タイミングが良すぎるだろ

暗闇に紛れて遊城を探して見つける

あの試合は俺が勝っていただど？死者蘇生でフレイム・ウイングマンを出す気だろ？

どの道、お前が負けている可能性が高いんだよ！

しかも天上院と丸藤は納得した顔になっているし、バカが多いよここ……

フレイム・ウイングマンの炎が見れなかったんだ、本当のことを言っ
てやるっ

「あの決闘はお前の負ける可能性が高かったぞ、遊城？」

「お前は……！」「11番君！」

「……………お前らは人を名前で呼べないのか？」

いい加減に名前で呼べよ

「貴方は……確か榊戸悠君だったかしら？貴方も万丈目君に誘いを受けていたの？」

「受けていた……が、誰がやるか

付き添い1、2を倒されたから俺にもメールを出したんだろうけど関係ない

だいたいアンティールールは校則違反だ、何故出ていた？」

「そ、それは……………」

言葉に詰まる天上院、どうせ遊城の実力を見る為だろ

「それより、なんで俺が負けなんだよ！

あの時、フレイム・ウイングマンを出したら俺の勝ちだろ！」

「そうだ、そうだ！」

丸藤……下手な便乗はやめておいた方がいいぞ？

「フレイム・ウイングマンには召喚制限があり、特殊召喚はできない」

「な、なんだって!？」

遊城が慌ててカードを見て確認する

「げっ、ホントだ」

「カードのテキストぐらいちゃんと読んでおけ、だからお前は11
0番なんだよ」

さて、伝えることを伝えたから帰るか

「ちょっと待ちなさい!」

「ん？」

天上院が俺を止める……………何故？

「なにか用か、天上院？」

「貴方は何で仮面を付けているのかしら、教えてくれる？」

止めた理由はそれかよ、教えてやる義理はないな

「教えてやる必要はない、それじゃ」

「ちょっと待てよ、俺と決闘^{デュエル}しろ!」

お前もなのか遊城? いい加減にしないと怒るぞ?

「断る、もしもう一度同じことを言ったら先生に言っておくから覚悟するように」

「お、おいっ！」

遊城が何か言っているが無視、早く部屋に戻ろう

寝る前にもう一度デッキ作りをしておくか、眠くないし

さて、次はどんなデッキを作ろうかな……………ふわぁ……………やっぱ

眠いや、寝よ

第2話 入学…………からの？（後書き）

さて、今回のデッキはビートダウン（パワー型）
本当にこんなデッキだったら事故率が高いです
次の話は……………何のデッキを使いましょうか？

第3話 湖の上での決闘

side悠

はあ……………暇だな

今はクロノス先生の授業なんだが……………よく遊城に当てるな？
大方、嫌がらせだろうな

そんなことをするぐらいなら他の人に当てて授業を進めて欲しい
だから、クロノス先生の授業だけ遅れているんだよな
そんなんで「シニョール榊戸」おっと、呼ばれたか

「なんででしょうか？」

「これついて説明しなさい」

説明問題をレッドの私に当てるか？普通……………
どうせ答えられないと思っっているんだろ？しかたなしに答えてやるよ
えっと、速攻魔法についてか……………

「速攻魔法は相手のターンでも発動できる特殊なカード
基本的にどんなタイミングでも発動はできるが、相手のターンに
発動する場合には

あらかじめ自分の魔法・罠ゾーンにカードをセットしなければなら
ない

ただし、セットしたターンにはカードを発動することはできない
また、速攻魔法は罠カードの後、スペルスピードが2となってい

て罠カードに近い

例としては、自分のモンスターが攻撃する時に相手が聖なるバリ
アミラーフォースを

発動した時に月の書を発動したとする

スペルスピード……カードの発動を処理すると後に発動したカー
ドが優先されるので

月の書の効果が先に発動する、月の書の効果により

自分のモンスターを裏側守備表示する、その後、ミラーフォース
の効果が発動される

ミラーフォースの効果で自分の場の攻撃表示モンスターが破壊さ
れるが

裏側守備表示となっているので破壊されない

他にも、相手モンスターの攻撃に対して「ス、ストップなノーネ

！」「……わかりました」

最後まで言わせて欲しいものだ

ん？何で周りの奴らは驚いた表情になっている、常識だろ？

こんな説明だが………一番簡単な例を出したんだぞ？相変わらずわ
けわからん

その後、クロノス先生が丸藤を当てるが答えられず

遊城がクロノス先生を馬鹿にして、クロノス先生の授業が終わった

………

………

………

………

…

後は……………特に何もないな
あるとしたら……………丸藤の顔が途中から気の抜けた顔になっていた
ところか？

正直に言えば、あの顔は……………気持ち悪かったな

さて、今日の予定は特になしな
月一テストも近いから、それ用のデッキも作らなきゃいけないな
いったい何を作るうか……………

ビートダウン？

詳細は決めていないので保留

コントロール？

事故率が高いので却下

デッキ破壊？

好きなので保留

特殊勝利？

あんまり扱ったことがないので却下

バーン？

……………使ったら大変なことになりそうだが、おもしろそうなので保留

さて……………どうするか？

ビートダウン？デッキ破壊？バーン？……………悩むな

P i i i i i i i P i i i i i i i P i i i i i i i

……こんな時間にビデオメールだと？今は夜だぞ？
なんとなく、嫌な予感がするが再生することにする

『丸藤翔は預かった 返して欲しくば女子寮まで来られし』

「……………悪戯か？」

正直に言えば悪戯メールであってほしい

あー……………そういえば、今日って覗き事件の日だっけ？

何か関わるようなことをしたか？ハッキリ言えば行きたくないんだ
けど……………

コレって悪いのは本人であって私じゃないのに……………

しかも場所の詳細がわからないから行きようがないぞ？女子寮のど
こだよ？

ドドドドドドッ

「悠！」

「……………何の用だ？遊城？」

人の部屋に入る際にはノックをしるよ

「翔が誘拐されたんだ！一緒に来てくれ」

誘拐はされてないぞ？拘束されただけだろうし

「それより、何で私が一緒に行かないといけない？関係ないだろ？」

「いや、だってメールに……」

遊城がメールを見せてくれる
ハッ、どうせ私のメールと同じだろ？

『丸藤翔は預かった 返して欲しくば女子寮まで来られし

追伸：神戸悠を連れて来なければ返しはしない

』

……何でお前のメールには追伸が書いてあるんだ？

「とにかく一緒に来てくれ！」

「わかった！わかったから服を引っ張らないでくれ！」

下手したら仮面が取れてしまうじゃないか！

そのまま遊城に女子寮の近くにある湖まで引っ張られる

……何でお前は場所がわかるんだよ？何？エスパーか何かか？
湖の近くにあったボートに乗り込み女子寮に向かう

そして女子寮に着くと

そこには天上院と取り巻き女子が二人に丸藤がいる

……何でここの生徒には取り巻きが多いのだろ？

「アニキー」

丸藤よ、私もいるんだぞ？

今は夜だし格好で分かりにくいと思うが

捕まった理由は覗きと知っているが………呆れるな
手紙はクロノス先生が書いたものだし字も汚いだろうから見ただけ
でわかるだろ
浮かれててわからなかったと思うがな

さて、さつさと原作通りに初めてくれよ
私は眠いんだから、早く部屋に戻りたい
そしてデツキも考えないといけない………

「悠、私と決闘^{デュエル}をしない？
もし私に勝ったら覗きの件は多めに見るわ」

「……………え？」

何で私に？

「明日香さん、あの人は怖いですから止めましょう！」

「そうですよ明日香さん、アイツは何かするに決まっているわ！」

黒髪は私を怖がり、赤髪の方は私が卑怯ものか何かと言いたいのか？

「いいのよ……………貴方とは戦ってみたかったのよ」

そして私に対して再び目を向ける天上院、怖い怖い

「しかたない……………遊城、私が代わりにやってもいいか？」

原作を壊したくないが、しかたないので決闘してやろう

「おう！勝って翔を助けてやってくれ」

「悠君、助けて」

男に助けて～と言われても嬉しくないわ、逆にやる気がなくなる

「決まったかしら？ここじゃ狭いから、ボートに乗って湖の中央に向かいましょう」

私たちはボートに乗り湖の中央まで移動する

まさか湖の上で決闘する日が来るとは、もし落ちたらカードが全部濡れるんだぞ？

こいつらの神経がわからん

「行くわよ！」

「はいはい」

ボートの上に立つのでバランスが悪いし、風も強い
気分も悪い……………やっぱ決闘を受けるんじゃない
デッキも適当に持ってきたから何のデッキなのかわからない

デュエル
「決闘！」
デュエル
「決闘」

やば……………一瞬吐き気が起きた、早く決着をつけよ
デッキからカードを五枚ドロ……………？

「げっ！」

このデッキは………！

「私のターン、ドロー！」

私はエトワール・サイバーを召喚」

何か全身タイツに近いやつが出たが問題はない、問題なのは………
…このデッキだ！

「更にリバースカードを一枚セットし、ターンエンド」

「……私のターン、ドロー………」

手札は………苛めだろコレ

「私は手札からジェスター・コンフィを特殊召喚」

現れたのは太ったピエロ、こいつは無条件で特殊召喚できるのは利点だね

「私はジェスター・コンフィを生け贄に……… 人造人間サイコシヨツカーを召喚」

「サイコシヨツカーですって!？」

サイコシヨツカーに驚く天上院

サイコシヨツカーのカードは赤紅眼^{レッドアイズ}ほどじゃないが

かなりのレアカードで、値段も高い

「私はサイコシヨツカーでエトワール・サイバーに攻撃」

「くっ！ドゥーブルパッセが発動できない」

伏せカードを言うなよ

「私はカードを二枚セットし……私はサイコショッカーに電腦增幅器を装備する

このカードはサイコショッカーにしか装備できず、私は畏カードの無効効果を受けない」

「何ですって!？」

「それじゃ、悠は畏カードを使えるじゃねえか!」

「悠君は鬼すっね」

誰の為にやっているかを思い出せよ

「私のターン、ドロー！」

私は戦士の生還を発動！墓地に存在する、エトワール・サイバーを手札に加えるわ

更に、融合を発動！手札のエトワール・サイバーとブレード・スケーターを融合

サイバーブレイダーを召喚するわ!」

現れたのはスケート選手みたいなモンスター

綺麗ではあるが……攻撃力が2100っていうのは微妙だな

「私はフュージョン・ウェポンをサイバーブレイダーに装備
装備モンスターの攻守は1500ポイントアップするわ!」

「攻撃力が3600になったすよ!？」

「やばいぜ、サイコショッカーの攻撃力を超えている!」

あれってレベル6以下にしか装備できないよな？

何でレベル7のサイバースレイダーに装備できるんだ？

「サイバースレイダーでサイコショッカーに攻撃!」

「誰がさせるか、罨カード発動、攻撃の無力化」

「くっ……ターンエンドよ」

悔しそうにして……誰が好きにダメージを受けるか

「私のターン、ドロ」

私はリミッター解除を発動し、サイコショッカーの攻撃力を倍にする」

このまま攻撃してもサイバースレイダーの効果で戦闘破壊は出来ないから

「私はデビルズ・サンクチュアリを発動し、メタルデビルトークンを特殊召喚する」

「この瞬間、私のサイバースレイダーの効果発動!攻撃力が倍になるわ!」

「別にどうでもいい……私はトークンを生け贄に神禽王アレクートルを召喚

効果を発動する、フィールド場の表側表示カードの効果を一枚無効にする

私はサイバーブレイダーの効果を無効にする」

「何ですって!?!」

これでサイバーブレイダーの効果がなくなり攻撃力が3600に戻った

「サイコショッカーでサイバーブレイダーを攻撃、サイバー電脳エナジーシヨック」

サイコショッカーが丸い電氣球を作りサイバーブレイダーに当て粉碎

「アレクトールで直接攻撃」
ダイレクトアタック

「きゃあああああああ!!!!」

攻撃宣言したらアレクトールが腕を伸ばしながら突っ込んでいき攻撃した

………以外に怖いぞ?例えるなら、トラックが目の前に来たと感じればいい

「おっしゃ!悠の勝利だぜ!」

「やったー!悠君が勝ったー!」

外野の二人は喜び

「明日香さん、大丈夫ですか?」

「ええ、大丈夫よ」

「明日香さんに勝つなんて……………アンタ、イカサマしたんじゃないでしょうね!」

一人は心配し、もう一人は私をイカサマ扱い……………悪いことをしたか?

「ジュンコ、彼はイカサマなんてしていないわ」

「で、でも……………」

「ジュンコ!」

「……………わかりました、明日香さん」

天上院が何とか静めてくれたか助かったな

「約束通り、翔を連れて行くぜ」

「どうぞ、約束は守るわ、今回のことは黙ってあげる」

私が勝ったしな

……………眠くなつたな、早く帰るか……………
最近、こいつらの所為で夜の出来事が多いから寝不足になる

「それじゃ、私は帰る……………またな天上院」

「天上院じゃなくて明日香って呼んでちょうだい、みんなそう呼ぶ

から」

「みんな呼ぼうが私には関係ないな……………行くぞ、遊城に丸藤」

「わかったけど…………俺も十代って呼んでいいんだぜ？」

「僕も翔って呼んでも構わないよ？」

「知らん、私がなんて呼ぼうが勝手だ」

下手に名前を呼んで仲良くなるのは嫌だしな……………

……………

……………

……………

…

side 明日香

「明日香さん、何で神戸さんと戦ったんですの？」

「え？」

女子寮に帰る途中に、ももえに質問された

「あ、私は気になってたの、何故ですか明日香さん？」

「……彼の事が気になったからよ、それだけ」

彼は決闘場で見た時から目立っていた

彼の決闘を見たが……最初はデツキ破壊で驚いた
デツキ破壊は扱いが難しいので、使う人は少ない

だけど、彼は使っていた

そんな彼と私は戦ってみたいと思い、翔君を利用して戦った

まさか最初から罠カードを封じられるとは思わなかった

その後、力押しをしたけどダメだった

今回の決闘で彼に負けてしまった、彼の圧勝だった

そんな彼を……私は超えたい

今まで負けたことはあるが相手にダメージを与えずに負けたのは初めてだ

次に戦うことがあったら……

「……………明日香さん？」

「……………あっ」

どうやら考え過ぎていたみたい
ジュンコとももえが話しかけていることに気がつかなかった

「ゴメンなさい、何かしら？」

「いえ、明日香さんが疲れているように見えましたから」

「大丈夫よ、心配しないで」

私の為に付き合ってくれた二人は私が見る限り眠そうだから

「夜も遅いから、もう寝ましょ」

「そうですね」

私たちは早足で女子寮に向かう

榊戸悠……………次は絶対に勝ってみせるわ！

第3話 湖の上での決闘（後書き）

今回の使用デッキは無効化デッキ

サイコシヨッカー、アレクトール、出てはいないがマジック・キャ
ンセラーなど

全体の無効化カードのみで作ったデッキ

主人公は無効化デッキはあんまり好きじゃないので使いたくあり
ません

それと、主人公の月一使用デッキをどれにするかアンケートします

- ・ビートダウン
- ・デッキ破壊
- ・バーン

以上の三つで、どれが良いか決めてください、お願いします

ちなみに、もう一枚の伏せカードはリビングゲットです

第4話 月1テスト（前書き）

アンケートの結果、主人公の使用デッキはバーンデッキです

今回は元シンクロモンスターが出ます

第4話 月1テスト

side 悠

今日は月一テストの日

私は試験用のデッキを組んでいたら、遅刻してしまった
急いで教室に向かうが……

「んしょ、んしょ……」

小型トラックを押して坂を登ろうとするおばさんがいる
あれは……トメさんか？なかなかトラックを押せないようだ
困っているみたいだし……助けるか、どうせ遅刻だし

「手伝いますよ、トメさん」

「ありがとうね、えっと……？」

「一年の榊戸悠です」

「悠君、試験はいいのかい？」

試験の時間が減るが……問題ないだろ

「いえ、大丈夫です、それよりさっさと終わらせましょう」

「そうだね、早く終わらせましょう!」

トラックを押すが……重い!坂でこの重さはキツイって!

タッタッタッタ

ん?この時間に走っているのは私と同じで遅刻者か?
いったい誰が………げっ!

「手伝うぜ、おばさん!」

お前はヤバいだろ………遊城!

「遊城!お前は成績が低いんだから速く行けよ!」

「悠!何でお前もいるんだよ?あと、酷いだろ!」

「事実だろ!それよりトラックを押せよ!」

「おう、わかった!」

遊城がトラックを後ろから押したおかげで坂を登ることができた

「ありがとね二人とも、おかげで助かったよ」

「気にしないでいいですよ」

「そうだぜ」

「本当に良い子だね、そろそろ教室に戻らないと時間がヤバいんじ

やないかい？」

時計を確認してみる……………確かに時間は半分ぐらい過ぎているな

「そうだった！急いで行かないと……………じゃあなおばさん！」

「気付くのが遅いだろ……………それじゃトメさん！」

時間もあまりないので急いで教室に向かう

教室には遊城が先に入りその後私が入った

「すみません、遅れました」

「二人とも、もう試験の時間は半分もないから早く用紙を取りに来るニャー」

先生から用紙を受け取り席に座る、問題は……………大したことはないな
問題数が多いから全て回答できるかが心配だ……………まっ、何とかな
るかな？
さっさと終わらせるか……………

……………

……………

……………

……………

……………

キンコーンカーンコーン

『これで筆記試験を終了します！なお、実技試験は午後から行います！』

あー……やっと、終わった……精神的に疲れた

問題を何とか全部といたが、指が痛いぞ、ずっと動かしていたからテスト終わるとみんな教室から出て行くし……何かあったっけ？

「悠！カードを買いに行こうぜ！」

「カード？」

「ああ、購買で新しいカードが入荷したみたいなんだ」

「悠君は買いに行かないの？」

カードねえ……たくさん持っているからいらねえや

「悪いが遠慮しておく」

「ええ、別に良いじゃねえかよ」

「今カードを買ってデッキを編集してもバランスが悪くなるだけだろ？」

カードを買わなくていいだろ、私は試験が始まるまで寝るからまたな」

そう言って遊城たちと別れる

さて、どこで寝ようかな？部屋か？遠いから却下、屋上？試験場と反対側なので却下なら……………

「あら、悠じゃない？何をしているの？」

考えながら歩いていたら、天上院に声を掛けられた

「貴方はカードを買いに行かないの？」

……………お前もか

「誰が買いに行くか」

「そうなの？けど、新しいカードが手に入るのよ？」

「知らん、私の勝手だろ？別にいいじゃないか、私がどうしようとする……………」

「ちょっと、待ちなさいよ！」

立ち去ろうとしたら止められた……………眠いのに

「なんだ？」

「少しぐらい購買を見に行かない？」

「行かない、それじゃ」

「ちょ……………！」

何か言っているが知らん、さっさとこの場を立ち去る
しかたがないから屋上で寝よう、あそこなら誰も来ないだろ

さて、屋上に到着

屋上には……誰もいないようだな
このデュエル・アカデミアには屋上が三つある
私はその中で試験場に一番近い屋上にいる

「あの辺りがいいかな？」

屋上の入り口の裏で寝ることにする、ここなら見つかりにくいと思
うので選んだ

「ふああ………」

そして、私はもたれかかるようにして眠った………

………

………

………

…

キンコーンカーンコーン

「……………ん？」

今のはチャームか？なら、そろそろ行くか

私の番は確か後半だったハズだから、ゆっくりと試験場に向かう

『フェザーマンで直接攻撃！』
ダイレクトアタック

『うわああああああ！』

会場に着いたら遊城がフェザーマンで万丈目に攻撃をして倒したところだった

「あつ、悠君」

丸藤が私に来たことに気付いて近付いてきた

「丸藤か、今どのくらい進んでいる？」

「だいたい半分くらいですよ」

半分か……もう少しで私の番だな

『え……二番の決闘場でやる生徒は直ちに向かうノーネ』

二番？……ああ、自分か

「悪いが私の番がだからこれで」

「頑張ってくださいっす」

お前に励まされても嬉しくない

私は二番の決闘場に向かい、相手を待つ
私の相手は誰かな？

「相手は……………お前かよ」

「リベンジをさせてもらうわよ、悠！」

私の相手は天上院かよ！同じ寮の人が相手じゃないのかよ！

「何でお前がここにいる？」

「クロノス先生に頼まれたのよ、貴方と戦ってほしいってね
私は貴方と戦いたかったから、クロノス先生の誘いに乗ったわ」

「おいおい……………いいのかよ？お前は優等生だろ？」

「クロノス先生が言わなくても、私は先生に頼んでいたわ」

そこまでして戦いたかったのかよ！お前も遊城と同じでバトルマニアか！

「さあ、やりましょう？」

「はあゝ……………しかたがないか……………」

お互いにデュエル・ディスクを構える

「「^{デュエル}決闘！」」

side明日香

「私が先攻をもうら、ドロ―

私はマジック・リアクターAIDエイトを守備表示で召喚、更に手札から速攻召喚

を発動効果で手札からトラップ・リアクターダブルアールRRを守備表示で召喚する」

悠の場に戦闘機みたいなモンスターが現れる

1ターンで二体のモンスターが出るなんて……早いわね

私の手札には、サイバー・チュチュ、サイバー・プリマ、ブレード・スケーター

融合、サイバー・エンジョル 茶吉尼だきに の五枚

機械天使の儀式のカードがないから茶吉尼だきにを儀式召喚することができない

手札にブレード・スケーターと融合があるからエトワール・サイバーがきたら

サイバー・ブレイダーを召喚できるから、悪くない手札だわ

「私は苦渋の選択を発動、私はデッキからカードを五枚選択肢

相手はその内の一枚を選択し、そのカードを手札に加える、私はこのカードを選択する」

選択されたカードは、サモン・リアクターAIDエーアイ×2

ブラック・ボンバー×2、魔封じの芳香の五枚ね

魔封じは、私のデッキが魔法を多く使っているから却下ね

他の二枚は知らないけど、サモン・リアクターってカードは何か怪しいわね
場にあるマジックとトラップ・リアクターと何か関係があると考えられる

なら、私が選択するのは……………！

「私はブラック・ボンバーのカードを選択するわ」

「なら、他のカードを墓地に送る

私はカードを一枚セットし、ターンエンド」

「私のターン、ドロー！」

引いたカードは……………プリマの光

プリマの光があればサイバー・チュチュを生け贄にサイバー・プリマを出すことが出来るプリマの光は速攻魔法だから、これで二体のモンスターを倒すことができる

「私はサイバー・チュチュを召喚！」

サイバー・チュチュは相手フィールド場の全てのモンスターがこのカードより攻撃力が高いのなら直接攻撃ができるけど、攻撃力800の
トラップ・リアクターがいるのでサイバー・チュチュは直接攻撃が出来ない

「私はサイバー・チュチュでマジック・リアクターに攻撃」

守備力が900だから、ギリギリ倒すことが出来る

「罨カード発動、フェイク・エクスプロージョン・ペンタ
相手モンスターの攻撃宣言に発動する、モンスターはその戦闘で
は破壊されない」

くつ、破壊できなかった

だけど、手札のプリマの光を発動すれば……………

「フェイク・エクスプロージョン・ペンタにはまだ効果が残っている
手札または墓地からサモン・リアクターAD^{エーアイ}を特殊召喚すること
が出来る

私は墓地から、サモン・リアクターAD^{エーアイ}を特殊召喚」

だから苦渋の選択で選んでいたのね

攻撃力が2000で、倒すことが出来るけど何か嫌な予感がする

「私はカードを一枚セットして、ターンエンド！」

ここはプリマの光を伏せて、相手の出方を伺うことにする

「私のターン、ドロー」

私はサモン・リアクターの効果を発動、自分フィールド場に存在
する

トラップ・リアクターとマジック・リアクターとこのカードを一
体ずつ墓地に送り

デッキ・手札・墓地から、ジャイアント・ボマー・エアレイドを
特殊召喚する

私はデッキからジャイアント・ボマー・エアレイドを特殊召喚」

「で、でかい……………」

三体のモンスターが合体したモンスターが現れる

一部の男子生徒はこのモンスターが現れたら、目を輝かしていた

「ジャイアント・ボマー・エアレイドの効果を発動、一ターンに一度手札を一枚墓地に送ることで相手フィールド上のカードを破壊できる」

「なんですって!？」

「私は手札を一枚墓地に送り、サイバー・チュチュを破壊する」

「くっ、私はプリマの光を発動！

サイバー・チュチュを生け贄に手札のサイバー・プリマを特殊召喚することが出来る

私は手札からサイバー・プリマを守備表示で特殊召喚する」

「なら、ジャイアント・ボマー・エアレイドでサイバー・プリマを攻撃」

「くっ!」

拙いわね、今の私の手札じゃあのモンスターを倒すことが出来ない

「私はカードを二枚セットし、ターンエンド」

「私のターン、ドロー!」

このターンに何とかしないと私が負けてしまう

「私は手札から強欲な壺を発動！カードを二枚、ドローするわ」

デッキからカードを二枚引く……………来た！

「私はサイバー・プチ・エンジエールを召喚！

効果でデッキから機械天使の儀式を加えるわ！」

「なら、こちらもジャイアント・ボマー・エアレイドの効果を発動、
相手ターンに一度

相手の召喚したモンスターを破壊し、相手に800ポイントのダメージを与える」

「きゃあああああ！！」

サイバー・プチ・エンジエールがジャイアント・ボマー・エアレイドのミサイルが当たり、その爆風で私はダメージを受ける

「私は手札の機械天使の儀式を発動！

私は手札のエトワール・サイバーとブレード・スケーターを生け贄に
手札からサイバー・エンジエール 茶吉尼^{だきに}を召喚」

私の場に薙刀を持ったサイバー・エンジエール 茶吉尼^{だきに} が現れる

「茶吉尼^{だきに}の効果！相手は自分のモンスターを選択して破壊しなければならぬ」

「私はジャイアント・ボマー・エアレイドを破壊する」

これで、直接攻撃が出来る！

「だきに茶吉尼で直接攻撃！」

「私はカードブロックを発動
戦闘ダメージを無効にして、デッキから一枚ドローする」

「私はターンエンドよ」

これで厄介なモンスターを倒すことが出来た

「私のターン、ドロー」

私はブラック・ボンバーを召喚」

あれは、苦渋の選択で手札に加えたカード
なんて言うか……見た感じ、ただの爆弾よね？

「ブラック・ボンバーの効果を発動

墓地からレベル4の闇属性モンスターである、トラップ・リアク
ターを特殊召喚する」

また………まさか、またジャイアント・ボマー・エアレイドを出
す気かしら？

「私はチューナーモンスターである、ブラック・ボンバーの効果を
発動する」

「チューナー？」

何のカードかわからないわ、周りの皆もわかっていないみたいだし

「このカードは融合素材と一緒に墓地に送ることで

融合デッキに存在する、融合モンスター特殊召喚することができる」

「なんですって!?!」

それなら融合のカードなんていないじゃない!

でも、融合モンスターは素材が決まっているから意味はないと思えるのだけど?

「私は場に存在する、闇属性の機械族と効果ダメージを持つ二体を融合する

全てを破壊するものよ!今この場で暴れるがいい!融合召喚!起動せよ、ダーク・ダイブ・ボンバー」

二体のモンスターが融合して新たなモンスターが現れた
驚いたけど、攻撃力ならまだ茶吉尼^{たきに}の方が上だ

「私は伏せていたリミッター解除を発動する」

「リミッター解除!?!」

機械族モンスターの攻撃力を倍にするカード!

「ダーク・ダイブ・ボンバーの攻撃力を倍にする」

「攻撃力が5200………」

「ダーク・ダイブ・ボンバーの攻撃、マックス・ダイブ・ボム」

「くっ!」

今の攻撃で私の残りライフが700しかない

だけど、リミッター解除にはエンド時にモンスターを破壊する効果がある

次の私のターンになれば……………

「ダーク・ダイブ・ボンバーの効果を発動、自分のモンスターを生け贄に捧げることで

そのモンスターのレベル×200ポイントのダメージを相手プレイヤーに与える」

「そんな！」

ダーク・ダイブ・ボンバーのレベルは7、効果を使われたら1400のダメージ

800しかない私のライフでは耐えきることが出来ない

「ダーク・ダイブ・ボンバーの効果でダーク・ダイブ・ボンバーを生け贄に捧げ

ダーク・ダイブ・ボンバーのレベル7×200の1400ポイントのダメージを与える」

完全に私の敗北ね……………

『オシリスレッドの榊戸悠君、君の決闘戦術を見せて貰いました

オベリスクブルーである彼女に見事勝利しました

成績は優秀で決闘も強いので文句はありません、君をライイエロ
ー昇格です』

周りから大きな歓声上がる

それはそうでしょうね、一日でライイエローに二人も昇格したもの

「悠、おめでとう」

「そうか……………」

何か喜んでいないみたいね、何でかしら？

「じゃあな」

「待ちなさい！」

彼がまたすぐに立ち去らないように肩を掴む、そう何度も立ち去らないで欲しいわ

「なんだ？」

「今回も負けたけど」

私は今回の決闘で…………

「次は絶対に勝つから、首を洗って待っていなさい」

「……………」

悠は何も言わずに去っていく、言いたいことを言えたからいいわ

私は目標が出来た　　彼に勝つという目標が…………

第4話 月1テスト（後書き）

ちなみに、ダーク・ダイブ・ボンバーの口上はオリジナルです

最初にプリマの光を使っていたら

マジック・リアクターでダメージ、さらにサモン・リアクターでダメージ

その後、ボマー・エアレイドの効果で破壊して直接攻撃で終わっていました

第5話 廃寮決闘！HERO vs HERO（前書き）

今回の主人公のデッキはオリジナルカードが殆どです

第5話 廃寮決闘！HERO vs HERO

side悠

「よし、完成した……！」

やっと、作っていたデッキが完成した
いや、難しいね、殆どオリジナルカードで作ったデッキだから時間
が掛かってしまった

今回作ったデッキは、マンガのオリジナルカードで作ったデッキだ

一応このデッキもガチデッキじゃなくて、お遊びデッキだ
このデッキで誰と戦おうかな……？ん……腹減った
デッキ作りに夢中で夕食を食べるのを忘れていた

私はオシリスレッドの食堂に向かう

あつ、言い忘れていたけど私はライエローだけど部屋はオシリス
レッドだよ？

理由？理由は……荷物の移動がメンドクサイからだ

だって、部屋の荷物が多いいんだぞ？

カードの入っているトランクでベッド一つ埋まっているんだ

……今になって、トランクをたくさん持ってきたことを後悔
している

しかし……やけに静かだな？

いつもなら遊城たちが起きて騒いでいるのに……

出かけてるのか？自分が言つのもなんだけど、今は夜の0時だぞ？

とりあえず、食堂に入るか……ん？……中から人の気配がする

「おやゝ？悠君、どうかしたのかニャー？」

この気の抜ける声は……

「……大徳寺先生」

声のした方には、大徳寺先生がいつものようにファラオの頭を撫でている

……ファラオって猫にしては体が大きいが……重くないのだろうか？

「悠君？こんな夜遅くに出歩くのはあまり良くないニャー」

「すみません、小腹が減ったもので……食堂で何か食べようと思
い」

「そうだったのかニャー、なら少し待つてほしいのニャー」

大徳寺先生は台所に行き、自分はイスに座り少し待つ

「できたのニャー」

先生が持ってきたのは料理である

「余りものですまないけど、食べてみるニャー」

「…………いただきます」

味は…………… 美味しいな

「どうかニヤー？」

「普通に美味しいですね、ありがとうございます」

「いえいえ、気にしないでほしいのニヤー」

流石は寮長、私にとって大徳寺先生が一番まともな先生である
オベリスクブルーの寮長みたいに差別をするわけじゃないからな

「そういえば…遊城たちの部屋がやけに静かだったので、何か知っていますか？」

静かというよりは、人の気配がしないといった方が正しいかな？
遊城のいびきは私の部屋まで聞こえるから、困ったものだ……………防
音加工でもするか？

「十代君たちは廃寮に行ったと思うのニヤー」

「…………… 廃寮？」

「そうなのニヤー」

元は特待生の寮だったけど、今は潰れて廃寮となっているニヤー」

ふん……………？

…………… 廃寮？この時に遊城が廃寮に向かう？

……何かあったか？確か、校則で禁止になっていたハズだが

「私は心配で、心配で………」

「……貴方が煽ったんじゃないのか？」

遊城たちが行ったのは大徳寺先生の所為だと思う

廃寮か……行ってみるか？食後の運動も兼ねて、食べてすぐ寝るのは体に悪いからな

「……それじゃ、先生、おやすみなさい」

「おやすみだニャー」

さて………と、向かいますか

廃寮まで結構距離があるが………走れば5分ぐらいで着くだろうな

………

………

………

………

…

「思ったよりも距離があつたな？」

まさか走っても8分とは………もう少し鍛えてみるか？毎日筋トレぐらいしている

決闘が強くて喧嘩が弱いというのは嫌だしな、さて、廃寮に侵入
しえっ？

進入禁止の札があつたって？……………入るなと言われたら、入りたく
なるものだろ？

中は……………やっぱり汚いな、何年も経っているから当然か

壁には千年アイテムの絵が彫られており、文字も彫られているが読
めない

もう少し、奥に進んでみるか……………

……………

……………

……………

…

「ここにも特に……………ん？」

今のは……………！

「……………」

あ……………びっくりした！なんか大男がいたよ

咄嗟に隠れて正解だな、大男は辺りを見渡している

「……………気のせいかな」

大男は私に気付かずに移動する、ふう……………よかった

けど、アイツの顔に見覚えがあるんだよね……とりあえず、追
ってみるか……………

……………

……………

……………

…

なんか無駄に広い部屋に着いたな
しかも、あの大男は何故か知らんが天上院を背負っていたし
ん……………もう少しで何か思い出しそう

「ん……………ん？な、何よコレ！？」

大男によって棺桶に入れられた天上院が目を覚ました

「ふっふっふっ……………貴様には遊城十代を誘い出す餌になってもら
おう」

そう言つて大男は何かを取り出す

あれは……………千年パズル！？まっ、偽物だろうな
廃寮・千年パズル（偽物）・遊城を呼び出す？……………思い出した！
こいつは……………

「タイタンか……………」

みんな大好きタイタンさんじゃないか！これってタイタンの初登場

の話じゃないか！

やった〜！来てよかったよ！……………何か一瞬だけ自分が壊れた気がするな

考え事をしていたらいつの間にか天上院が気絶していた

「ふっふっふっ……………」

この後、遊城がやって来てタイタンを倒すハズだよな？

で、しばらくしたら闇タイタンが出てくるが、倒されて闇に引きずりこまれるんだっけ？

……………なんかタイタンが可哀想だな、クロノス先生の給料三カ月でこんな目にあうなんて

……………助けてやるか

「おい」

「ん？ぐはあ！？」

タイタンが振り向いたときに顔に拳をぶつける……………助ける為だからゴメンね？

「き、きさぐはっ！？」

タイタンが殴ってこようとしたので、その手を掴んで今度は背負い投げをした

「すまないがアンタに頼みがあるのだが……………」

「だれが貴様のいたたたたたあああああああ！」

倒れたタイタンに十字固めをしながら頼んでみる

「……………聞いてくれるか？」

「いたあああつ！わ、わかった！わかったからやめてくれええええええ！」

交渉成立だな、いくら体格差があっても関節技は効くな

「……………それで、私に頼みたいことはなんだ？」

「ああ、私に遊城と決闘させてもらいたいだけだ」

「何だと！貴様、私の仕事を奪うつもりか！？」

「別に決闘ぐらいいいじゃないか

アンタは人を誘拐したからな？警察に通報するよりましだろ」

「ぐっ……………！」

「凶星みたいだな、だが安心していい通報はしない」

「……………本当か？」

何か警戒されているな、それも当然か

そして、タイタンはしばらく考える仕草をとる

「……………いいだろ、協力してやろう

もう少しで遊城十代がやってくるハズだ、準備でもしているがい

い」

「最初から準備は出来ている、遊城を騙す為の作戦を伝えてやるから耳を貸せ」

私はタイタンに作戦を伝え、私は隠れる
そして、5分ほどしたら遊城たちがやって来た

｝side十代｝

「あ、明日香!!」

廃寮を翔と隼人と一緒に探検していたら、急に明日香の悲鳴が聞こえ
奥の部屋にエトワール・サイバーのカードが落ちていて
近くの扉が開いていたので入ったら、そこには明日香が棺桶で眠っ
ていた

「ふっふっふっ、この者の魂は深き闇に沈んでいる」

「だ、誰だ!!」

明日香の近くに大男が煙の中から現れた

「ようこそ遊城十代」

「だれだお前は!!」

まさかコイツが明日香を……………!!

「我が名はタイタン、闇の決闘者だ」
デュエリスト

「お前、何者だ！明日香に何をしたんだ！？」

「私は闇のゲームを愛する闇の決闘者だ」

「ふざけるな！闇のゲームなんて有るわけがないだろ！」

闇のゲームなんて存在するわけがない！

「ふっふっふっ、なら我が闇の力を見せてやろう」

そう言つて大男が出したのは……………千年パズル！？

「なっ！あれは千年パズルなんだな！」

「ほ、本物！？」

「見るがいい！！」

千年パズルから強い光が出て、目が見えねえ！

「あ、あれは……………！」

翔が驚いた声を出す、やっと光が弱くなり目の前には……………！

「う、嘘だろ……………？」

なんでアイツがここに……………！

「何で、悠君が……」

タイタンの横に悠がいる

「ふっふっふっ、この者の魂も深き闇に沈んでいる」

「お前………！」

「返してほしければ決闘で勝つんだな」
デュエル

「おう、望むところだ！」

俺は決闘盤を構える
デュエル・ディスク

「ふっふっふっ………いつ私が戦うと言った？」

「………何？」

コイツ、まさか………！

「貴様の相手はコイツだ」

悠が前に出て決闘盤を構える

「お前、汚いぞ！」

「ふっふっふっ………」

くそっ！ いったいどうすれば………

「遊城……………」

今の声は……………」

「悠……………」

「私と決闘をしろ……………」

「そういうことだ、コイツに勝つことが出来たら元に戻してやろう」

「本当か!?!」

「ああ、本当だ」

なら、俺は決闘で悠に勝たないといけない
アイツの決闘を見たがどれも強力なデッキだ、もしかしたら勝てない可能性がある

「やるぞ、遊城」

「おう!」

「決闘!」
デュエル
……………デュエル
「決闘」

「先攻は私が貰う、ドロー」

私は……………
デュエル
V・HEROミニマム・レイを守備表示で召喚」

「……………
デュエル
V・HERO?」
……………」

「私はカードを一枚セットして、ターンエンド」

ヴィジョン
V・HEROなんて聞いたことがねえな、どんな効果かわくわくするぜ！

「俺のターン、ドロー」

守備はたったの700しかない、なら………

「俺はE・HEROフェザーマンを召喚、バトルだ！ いけ、フェザーマン！」

伏せカードは発動されず相手モンスターは破壊された

「俺はカードを一枚セットして、ターンエンドだ」

「私のターン、ドロー」

私は手札断殺を発動、お互いに手札を四枚墓地に送り、送った枚数分ドローする」

ラッキー、手札にはネクロダークマンがあつた

これで、エッジマンがきたら生け贄なしで召喚できるぜ

「私はV・HEROインクリートを守備表示で召喚
カードを一枚セットして、ターンエンドだ」

「俺のターン、ドロー」

俺はE・HEROスパークマンを召喚！スパークマンで攻撃、スパークフラッシュ！」

スパークマンの電撃で一体を倒すことできた

「フェザーマンで直接攻撃！」
ダイレクトアタック

「くっ！」

よっしゃ！初ダメージを与えたぜ

「貴様がダメージを与えたことで闇のゲームが執行される」

「くっ……………！」

突然、悠の体の一部が消えた

「お前……………！」

「これが闇のゲームだ」

俺がダメージを与えたから悠が！

「……………この瞬間、墓地に存在するV・HEROの効果を発動する」

墓地で発動する効果？

「自分がダメージを受けた時、墓地に存在するV・HEROを永続魔法扱いとして

魔法・罠ゾーンに表側表示で置く、私は墓地に存在するミニマム・レイ、インクリート

更に手札断殺の効果で墓地に送られたポイズナーを置く」

悠の場に三体のモンスターが幻影となって現れる

「俺はターンエンドだ」

「私のターン、ドロー」

私はインクリートを召喚し、魔法・罨ゾーンに存在するインクリートの効果を発動

場のV・HEROを生け贄にすることで場に特殊召喚することができる」

「な、なんだって!」

「私は魔法・罨ゾーンからインクリートを特殊召喚する、特殊召喚された

インクリートの効果を発動、デッキからV・HEROグラビートを特殊召喚する」

一気に二体のモンスター並びやがった

「私はグラビートの効果を発動、このカードを生け贄に捧げること魔法・罨ゾーンに存在するV・HERO二体を特殊召喚することができる」

「なっ!?!」

「私は効果によりミニマム・レイとポイズナーを特殊召喚

ミニマム・レイの効果を発動、相手のレベル4以下のモンスターを一体破壊することができる、私はスパークマンを破壊する」

「くっ!」

ミニマム・レイの目から出たビームによってスパークマンが破壊された

「更にポイズナーの効果により、相手モンスター一体の攻守を半分にする

私はフェザーマンの攻守を半分にする」

ポイズナーの手から出た液体がフェザーマンに当たり、その箇所が溶けて苦しんでいる

「私はミニマム・レイでフェザーマンに攻撃」

攻撃力の差の700ダメージを受ける

「俺はヒーロー・シグナルを発動、デッキからバブルマンを特殊召喚する

バブルマンの効果を発動、このカード以外に自分の場にカードがない時

デッキからカードを二枚ドローすることができる、俺は二枚ドローする」

よし、融合のカードがきたぜ！

「バブルマンを破壊できないな………私はターンエンドだ」

「俺ターン、ドロー！

俺は戦士の生還を発動、墓地からフェザーマンを手札に加える

そして、融合を発動！手札のフェザーマンとバーストレディを融合！

来い、マイフェイバリットカード！E・HEROフレイム・ウイングマンを融合召喚！

俺はフレイム・ウイングマンでミニマム・レイを攻撃、フレイム・シュート！」

フレイム・ウイングマンが炎を纏い、ミニマム・レイに突撃する

「（…………腕からの炎が見れないじゃないか）

私は永続罨幻惑を発動、自分の場にV・HEROが存在する時相手モンスター一体の攻撃力を半分にする」

「嘘だろ！？」

フレイム・ウイングマンの攻撃力が1050になり
攻撃力1200のミニマム・レイより下回ってしまった

「反撃しろ、ミニマム・レイ」

「くそっ！俺はクレイマンを守備表示で召喚、カードを二枚セットしてターンエンドだ」

伏せたのはミラーフォースとヒーロースピリッツだ

ライフは3000と3150と俺が少しだけ上だが油断できない

「私のターン、ドロー、ポイズナーとインクリートを生け贄に
V・HEROウィッチ・レイドを召喚、更にウィッチ・レイドの効果を発動

このカードが生け贄召喚に成功した時、相手の魔法・罨カードをすべて破壊する」

「なっ!？」

伏せていた二枚のカードが破壊された

「私はリビングデッドの呼び声を発動し、インクリートを特殊召喚、手札から融合を

発動、ミニマム・レイとインクリートを融合し、V・HEROアドレイションを召喚

アドレイション効果を発動、このカード以外のHEROを一体選択しそのモンスターの攻守分、相手モンスターの攻守をダウンさせる私はウィッチ・レイドを選択し、クレイマンの攻守をダウンさせる、」

ウィッチ・レイドの攻撃力が2700、守備が1900だから俺のクレイマンの守備力はたったの100になってしまい、攻撃力が0になった

「ウィッチ・レイドで攻撃、魔弾砲」

「くっ!」

クレイマンが破壊されてしまった

「アドレイションでバブルマンを攻撃、アンビションサンクションズ!」

「うわああああああ!」

俺の場のモンスターが全滅してしまった、俺の手札は一枚

「ターンエンドだ」

俺は勝って悠と明日香を助けないといけないんだ！

「俺のターン、ドロー！」

……………よし！

「このターンで決着をつけてやるぜ」

「……………何だと？」

「行くぜ！ ミラクル・フュージョンを発動！墓地に存在する、フレーム・ウイングマンと

スパークマンを融合！E・HEROシャイニング・フレア・ウイングマンを融合召喚！

効果で墓地に存在するE・HERO一体につき攻撃力が300ポイントアップする、俺の

墓地にはクレイマン、ネクロダークマン、バブルマン、フェザーマン、バーストレディ

の五体が存在する、よって攻撃力は1500ポイントアップする
！」

「だが、幻惑の効果を忘れるなよ？ シャイニング・フレア・ウイングマンの攻撃力は

$2500 + 1500 = 4000$ の半分である2000ポイントの攻撃力となる」

「へっ、そんなの関係ないぜ」

「……………何？」

「ヒーローには相応しい場があるんだよ

俺はフィールド魔法、摩天楼 スカイスクレイパー を発動！」

フィールドに高層ビルが現れ、ヒーローに相応しい場となる

「シャイニング・フレア・ウイングマンでアドレイションを攻撃！」

「血迷ったか？攻撃力はこちらの方が上だぞ？」

「へっ、そいつはどうか？」

スカイスクレイパーの効果を発動！E・HEROの攻撃力が
相手モンスターより低い時、攻撃力は1000ポイントアップする

！」

「何だと！？」

「更に、シャイニング・フレア・ウイングマンは
破壊したモンスターの攻撃力分のダメージを与える効果を持っている！

行け！シャイニング・フレア・ウイングマン！

アドレイションに攻撃！シャイニング。シュート！」

シャイニング・フレア・ウイングマンが光を纏いアドレイションに
突撃し

アドレイションは破壊され悠のライフは2800ポイントになった

「この瞬間、シャイニング・フレア・ウイングマンの効果を発動！
破壊したモンスターの攻撃力分のダメージを与える！」

悠はアドレイションの攻撃力2800を受けてライフが0となった

「ガッチャ！楽しい決闘デュエルだったぜ！」

（side 悠）

流石は主人公だな、チート…………マジ、チートだよな
それよりシャイニング・フレア・ウィングマンの攻撃は…………無駄
に眩しかったぞ！
ちよつと目が痛くなって、顔を押さえて倒れてしまったぞ

「くそっ！」

タイタンが煙玉を使って逃げる、これでタイタンが闇に落ちること
はないだろ
みんな大好きタイタンさんを守ることができたよ…………タイタンの
出番はもう終わりだな

「大丈夫か！悠！」

「ん？遊城か？」

「ああ、何でお前がここにいるんだよ」

とりあえず、誤魔化すか

「廃寮の近くを通っていたら急に意識が失ってな、気がついたらこ

ここにいたな」

「そうなのか」

納得する遊城、単純だな

「アニキー！明日香さんも無事つすよー！」

あつ、忘れてた

アイツには悪いことをしたな……

「おい、明日香大丈夫か？」

遊城が天上院に声をかけるが反応がない

まだ、気絶しているのか？……………しかたがない

「遊城、天上院は私が運ぶからお前たちは先導しろ」

「悠、お前だつて疲れているだろ？大丈夫なのか？」

「問題ない、……………よつと」

……………

「悠、どうしたんだよ？」

「……………なんでもない、行くぞ」

廃寮の外に出たら、ちょうどよい切り株があったのでそこに天上院を降ろした

その後、しばらくしたら天上院が目覚まし、何故廃寮にいたのか聞いたら兄の

手掛かりを探していたみたいだ

遊城が廃寮から持ち出した天上院兄の写真を天上院に渡したら

天上院は手掛かりが見つかったと喜んでいた、遊城たちは寮に帰ったしかも、もう夜明けかよ

「天上院、女子寮まで送ってやる」

「いいわよ、貴方まで寮に帰る時間が遅くなるわ」

「気にしなくいい、お前みたいな美人がこんな時間に一人で帰るのは危険だからな」

「び、美人ですって!?!」

天上院が顔を赤くする

「深い意味はないぞ?単純にそう思っただけだからな」

「そ、そうなの……?」

「ほれ、さっさと送ってやるよ」

天上院の手を掴む

「ちょ、ちょっと……」

顔をまた赤くするが知らん、俺だって早く帰って寝たいんだよ!

10 程かけて天上院を寮に送った後、オシリスレッド寮の自分の部屋に帰りすぐに寝た

第5話 廃寮決闘！HERO vs HERO（後書き）

あー……………やっと書き終えた

あと皆さんに少しお知らせ

今日から学校が始まるので投稿が遅れます

それとテスト期間に入るのでだいたい二週間ぐらい投稿できません、
以上

あとがき、バブルマンの存在を忘れていました

第6話 退学？（前書き）

今回は決闘はありません

第6話 退学？

side 悠

ふあわ……………眠い

あの後すぐに部屋に戻って寝たのだが、三時間ちょっとしか寝ていない

まったく……………寝不足だぞ？

なんか上の部屋はうるさいから、二度寝もできないじゃないか！

音の位置から考えて……………遊城か？アイツらまた何かやったのか？
まっ、私には関係ないか……………寝よう

ドンッ！ドンッ！ドンッ！

……………誰だ、私の睡眠を邪魔する奴は？

『おい！今すぐに扉を開けろ！さもなくば扉を爆破するぞ！』

扉を爆破ね……………それは怖いな

扉のない部屋なんて想像できないな、それよりも住みたくない
……………しかたがない、扉を開けるか

「貴様が榊戸悠だな？」

扉を開けると、そこには軍服を着た女性がいて

周りには部下みたいなやつが10数人いる……………誰だよ？
とりあえず……………

「違います」

否定しておく、関わりたくないからな？

私が否定したことに驚き、女性は焦っているように見えた

「……………もう一度言おう、貴様が榊戸悠だな？」

「人違いです、榊戸君は向こうの部屋ですからそこに行って下さい」

「そうだったのか？すまない、協力に感謝する」

私が指した部屋に向かう軍服の人たち

さっき思い出したが、あれって退学の話だったよな？

アイツらに連行されて一緒に行くぐらいなら、一人で行きたいものだ

私は、ある程度の荷物を持って……………校長室だっけ？

あんまり覚えていないが校長室に行こうと思う、遊城たちは先に着
いていると思うしな？

さて、とつとと向かいますか！

『貴様！この期に及んでまだ言い訳をするか！榊戸悠！』

『だから、私はさっきから違うって言っているのにニャー』

『嘘をつくな！』

『本当なのニャー！』

校長室に向かう途中に、オシリスレッドから
スケープゴートにした大徳寺先生の声が聞こえた気がするが、自業
自得だ

.....

.....

.....

.....

.....

...

さて、校長室に着いたのでノックをして校長室に入る
そこには予想通りに遊城と丸藤の二人がいた、さっきのまだ女はい
ないようだな？

「おや？榊戸君一人だけですか？アカデミアの倫理委員会の人が行
ったと思いますが？」

「倫理委員会.....？」

あの女のことかな？猫先生を生け贄にしたのは拙かったか？
ちなみに、猫先生というのは大徳寺先生のことだ、だって、いつも
猫を持っているだろ？

「彼女がいないと話が始まりませんね……君たちはそのソファに座っていて下さい」

校長に言われ大人しくソファに座わる

そして10分ぐらい経過し、あの女がやってきて私を見ると思いつきり睨みつけてきた

おゝ怖いね？貴方が私を大徳寺先生と間違えたからそうなるんだ、あの人が悪いからな？

全員が集まったことで話が始まる

「「ええー！！退学！？」」

「（メンドクサイな……）」

「本日期明 遊城十代以下三名は閉鎖され立ち入り禁止になっっている特別寮に入りこみ内部を荒らした、調べはついている」

「内部を荒らした？おかしいな…特に荒らしていないのだが

何が荒らされていたんだ？それに、私たちが廃寮を出たのはだいたい三時ぐらいだ

どうやって、調べることができたんだ？」

「そ、それは……」

「更に、半日も経っていないのに犯人が私たちの三人だ？

どれだけ優秀な奴でも一日ぐらいかけて調査するだろ？何故、たったの数時間で

犯人を私たちと特定することができる？普通に考えれば無理だろ」

「私たち倫理委員会が優秀すぎるだけの話だろ！」

「どうだが……」

「ですが、貴方達――ノ退学は決まっているノーネ
それを今さら取り消すこと――ハ、不可能なノーネ」

「そんな、一方的過ぎるだろ！」

「ドロップアウトボーイは黙るノーネ！」

遊城が話すとクロノス先生がドロップアウトボーイとか言うから五月蠅いんだよな

「遊城の言っていることにも一理あります

あまりにも一方的なので、何か妥協案というものがありますか？」

私がそう言うのとクロノス先生が良い考えがあると言った
まっ、原作は知っているから聞かなくてもいいけどね

「ならば、制裁タッグ決闘をしてもらうノーネ！」

遊城十代と丸藤翔でタッグを組み、決闘をしてもらうノーネ！」

……………おい、ちょっと待てよ！

「クロノス先生、私はどうするのですか？」

「貴方はタッグのパートナーを自分で決めていいノーネ
ただし、知り合いであることが条件と同じデッキはダメなノーネ
あと、パートナーには勝っても負けても何も無いから気にしなくて

いいノーネ」

「話は以上です

相手が決まり次第連絡します、それまで残りの学園生活を楽しむがいい……解散！」

あの女、最後の言葉は私に対してだな？

まっ、どうでもいいや、さっさと校長室を出るとしよう………

………

………

………

………

…

今は寮に帰っている途中なんだが……… タッグパートナーをどうしようかな？

ん……… 後でもいいや、すぐに決める必要はないしな

それに、遊城と丸藤と天上院ぐらいしか知り合いなんていないからな

「あっ………」

「ん？………」

何故かレッド寮の前に天上院がいた、またメンドクサイ奴だな………

「……………」

無言かよ、別にどうでもいいがな
さて、早く部屋に入るとしますか？デッキも作っておいた方がいい
しな

部屋に入ろうとすると天上院にじやまされた、何故に？

「邪魔だ、部屋の前から退いてくれ、入れないだろ？」

「少し話があるのだけど、いいかしら？」

話し？……………聞くぐらいならいいか

「何の話だ？」

「最初は廃寮件ね、送ってくれて助かったわ」

最初ってことは次があるのかよ

「はいはい」

とりあえず適当な返事をしておく

「それで次の話なんだけど……………制裁決闘って本当？」

「制裁決闘？……………ああ、制裁タッグ決闘のことか」

デッキ作りやパートナー探しで悩んでいたら忘れていたな、一番重
要なものなあ？

「それって確かタッグ決闘よね？」

「……………お前は何が言いたい？」

なんとなく予想はできるが、聞いてみよう

「私を……………貴方のタッグパートナーにしてくれない？」

予想通りすぎる台詞なので

「はあ……………」

「ええ！溜め息！？」

思わず溜め息が出てしまった

「……………っで？」

「私の所為で貴方たちが退学になるのが嫌なのよ

オベリスクブルーである私はお咎めないから、せめて協力ぐらいは「却下」……………え？」

「却下だ」

「ど、どうしてよー！」

特に理由はないけどな？

「説明がいるか？」

「当り前でしょ！」

説明ね……………メンドクサイ、察してくれよ

「理由はいろいろとあるが……………デッキが合わない、戦略が違う
メンドクサイ、お前は退学宣言などされていないから別にいいだ
ろ？」

など、様々な理由があるが……………納得できるか？」

「納得できるわけないでしょ！しかも半分以上関係ないわよね！？」

殆どが関係ないけどな、デッキなんて変えればどうともなるし
戦略なんて教えればいい、メンドクサイのは事実だからしかたがない

「まったく……………私は一人でやるからお前の協力はいらん」

「どうしてよ！二人の方が勝つ確率が上がるでしょ！」

「一人でやった方がうまく回るし、やりやすいから一人でいいんだ
よ」

実際そうだからな

いくら一つ一つが強いデッキでも合わなければ弱くなる

少なくともタッグを組むのは相性が良いデッキじゃなければいけない

まっ、合わせる気はさらさらない

「あ……………もっ！勝手にしなさい！」

あーあ、怒って帰っちゃったよ

怒らせた自分が言っのがなんだけど、別にいいや

やっと部屋に入ることができた……………寝よ

……………

……………

……………

……………

……………

…

……………寝すぎたな、今の時間は夜の10時か

そろそろデッキ作りでもしようかな？時間をかけて作るのは楽しいからな

さて……………どんなデッキを作ろうかな？

対戦相手は……………確か迷宮兄弟だっけ？頭ツルツルの

武藤遊戯と戦ったことがある（自称）伝説の決闘者だったか？バカらしい

デッキはゲート・ガーディアンを中心としたものだったよな

召喚方法が難しいのに攻撃力が3750という不釣り合いなモンスター

バルバロスUrの攻撃力よりも50低いから……………弱いよな？

とりあえずアイツらに使うデッキはどれにするかな？

？

迷宮兄弟と同じようにゲート・ガーディアンデッキを使う

相手よりも自分の方がうまく使えると証明させてやるためにな
どれだけ自分のデッキ構成が甘いのか教えるデッキだな

？

同じようにゲート・ガーディアンと同じように三体を生け贄に捧げるデッキを使う

このデッキは主にカウンターデッキだな、相手の攻撃を誘って迎え撃つ戦略だな

高い攻撃力もこのデッキの前では意味ないな

？

まったく違うデッキを使う

これは……………私が制裁タッグの当日に適当に選んで参加する
下手したら負けるかもしれないが、大丈夫だろ

あー……………考えるのが面倒になったな

また、今度にしようかな？私はベッドに入りさつさと眠る
早く当日にならないかな……………

第6話 退学？（後書き）

どうも、こんばんわ

本編でも書きましたが主人公のデッキアンケートを取ります

？、ゲート・ガーディアンデッキ

？、ゲート・ガーディアンと同じように三体を生け贄に捧げるデッキ

？、全く違うデッキを使用する

？にいたっては皆さんが？を選択するときと一緒に

デッキの案を送ってください、その中で出たデッキを選びます

期限は………三日でいいですかね？

三日後の9月7日の夜0時までを期限とします

皆さんがアンケートに答えてくれたら嬉しいかぎりです、ではまた
次回

受付終了！

第7話 制裁決闘（前書き）

久々の投稿です

うまく書けているか少し心配

前回アンケートの結果は？です

今回のデッキはMr.後困るさんが送ってくれました、ありがとうございます

期待に応えられたか心配である、作者からでした

第7話 制裁決闘

＼side悠＼

はあ……明日が制裁決闘の日か……メンドイ

ん？話が急すぎるって？……特に話すことなんてないぞ？

遊城と丸藤が決闘して丸藤が負けて逃げだしたり
何か顔がものすごくコアラに似ている人が来たり

遊城が丸藤兄に決闘して負けたりした話しかないぞ？……十分か

話は原作通りでつまらなかったな、やっぱり自分で行動しないと楽しくない

デッキは、っと……（ガサガサガサ）……これでいいか

そこらへんに置いてあるトランクから適当にデッキを一つ取り
デュエル・ディスク
決闘盤にセットしておく……これで準備は完了だな

沢山デッキを作ってはトランクに入れていたから、どこにどのデッキが入っているのか

よくわからないんだよな、このトランクは……何のデッキを入れ
たんだっけ？

……今度、時間があつたら整理しておくか

さて、デッキも決めたから寝るか

.....

.....

.....

.....

.....

...

デュエルフィールド

決闘場に来たのはいいが.....暇だ

私の番はあの二人の後だしな、特にやることがないんだよ
これだったら部屋でゆっくり寝てればよかった、今から戻るのかな？

しかし、来てしまったからには一応試合を見ておくか？
部屋に戻る時間があるかわからんな、体力の無駄だ

『それでは、シニョール遊城十代と丸藤翔のタッグ決闘デュエルを始める
ノーネー！！』

おっ、やっと始まるのか

『『『『決闘！』』』』
デュエル

さて、観察しますか

.....

.....

.....

.....

.....

...

感想……試合中の万丈目の顔芸がおもしろかった

だってさ、遊城たちが負けそうになったらバクラみたいになってい
るんだぞ？

いや……おもしろかった、来たかいがあったな

『では、次の決闘^{デュエル}に移るノーネ！』

やっと、出番か

『次は、シニョール榊戸悠と……おろ？シニョール榊戸？パートナー
はどうしたノーネ？』

「ん？別にこんな奴らは私一人で十分です」

クロノス先生に正直に言っておく

「なんだと！」

「我々相手に！」

「一人で十分と言うのか！」

「（うぜえ……）」

この二人はアニメを見ても思ったが………うざい！

『校長？これはいいのでしょうか？』

『私は構いませんよ』

校長からも許可を貰えたのでよかった

もし、許可が貰えなかった事を考えていなかったからな

『え……コホン、それでは決闘^{デュエル}を始めるノーネ！』

デュエル・ディスク
決闘盤をお互いに構える

「」「決闘^{デュエル}」「」

さて、いったい何のデツキかな？

side 明日香

まさか十代たちが迷宮兄弟に勝つなんて思わなかったわ

翔君も自信が出たみたいだし、退学もなくなつたて本当によかつたわ

それよりも、今は悠の決闘が気になる

彼と決闘したことがあるけど一度もダメージを与えられなかった
彼は強いと思うけど、流石に二人の決闘者を相手にするのは無謀だ
と思う

「『『デュエル
決闘』』」

考え事をしていたら決闘が始まるところだった

決闘のルールはバトルロワイヤル式で順番が悠↓迷宮兄弟の兄↓迷
宮兄弟の弟の順番

迷宮兄弟のライフは二人で8000、悠のライフは一人だから40
00しかない

圧倒的に悠が不利だけど、大丈夫かしら？

「私のターン、ドロー」

私は手札から迷える仔羊を発動、効果により自分フィールド上に
仔羊トークン二体を

守備表示で特殊召喚する、私はカードを二枚セットしてターンエ
ンド」

場に仔羊トークンとカードが伏せられて悠ターンが終わる

バトルロワイヤル・ルールで最初のターンは皆攻撃ができない

悠は次のターンに強力なモンスターを出すつもりね

「私のターン、ドロー！」

私は暴風小僧を召喚！更に手札から生け贄^{ドール}人形を発動

私は暴風小僧を生け贄に三魔神の一体、水魔神―スーガを召喚す
る！」

早速三魔神の一体が現れてしまった
早く倒さないと十代たちを苦しめたゲートガーディアンが召喚されるわ

「私は闇の指名者を発動、効果により相手は私が宣言したカードがデッキにあれば

手札に加えることができる、私は弟のデッキの雷魔神―サンガを宣言する」

「当然、私のデッキにはサンガが入っているので手札に加える」

これは、十代たちと同じ戦法ね

「私はターンエンドだ」

「私のターン、ドロー！」

私はカイザーシーホースを攻撃表示で召喚！カードを一枚セットし、ターンエンドだ」

これで皆のターンが終了して次の悠のターンから攻撃することができる

「私のターン、ドロー」

私は手札抹殺を発動し、お互いに手札をすべて墓地に送りその枚数分ドローする」

「チッ、私のサンガが……」

うまいわ、手札抹殺の効果でサンガが墓地に行ってたわ

「私は天使の施しを発動、デッキからカードを三枚ドロし二枚捨てる

ふむ……………私は、仔羊トークン一体を攻撃表示に変更する」

えっ!?

「攻撃力0のモンスターを攻撃表示だ」と!

「バカめ、攻撃したら大ダメージだぞ」

攻撃力0のモンスターを攻撃表示にするなんて何を考えているのかしら?

「だが、バカ正直に攻撃するか、私は強制転移を発動する

このカードの効果により相手モンスターと自分のモンスターを入れ替える

私は対象に迷宮兄を選択してスーガと攻撃表示の仔羊トークンを入れ替える」

「わ、私のスーガ…………」

「私はライフを1500ポイント払い、自律行動ユニットを発動相手の墓地のモンスターを自分フィールド場に攻撃表示で特殊召喚する

私は迷宮弟の墓地に存在するサンガを私の場に特殊召喚する」

「私のサンガが…………!」

これは……酷い、ゲート・ガーディアンのパーツを二体も奪うなんて

けど、自律行動ユニットでライフが2500になっているから危ないわね

「サンガで迷宮兄に直接攻撃」
ダイレクトアタック

「させん、私は攻撃の無力化を発動！攻撃を無効にしバトルフェイズを終了させる」

サンガで攻撃するが攻撃の無力化で無効されてしまった

「チッ！メンドクサイことを……私は命削りの宝札を発動
手札が五枚になるようにドロースる、私はカードを一枚セットして
ターンエンド」

「私のターン、ドロー！
ヒゲアンコウを守備表示で召喚、カードを二枚セットしてターン
エンド」

「私のターン、ドロー！
……カードを二枚セットしターンエンド」

二人とも自分の主力モンスターが奪われてしまったのか守りになっている

「私のターン、ドロー……」

悠がカードをドロースて動きが止まる、どうしたのかしら？

「……………つまらん」

「何だと！」

悠の言った言葉に迷宮兄弟が怒る

「主力モンスターが奪われたただで、ここまで弱いとわ……………」

「貴様！」

「我等を！」

「愚弄する気か！」

あの二人って言うたびに被っているわね

「事実だ、さつさと終わらせたいが……………遊んでやろう

私はハリケーンを発動、魔法・畏カードを全て持ち主の手札に戻す」

ハリケーンの効果で魔法・畏カードが全て手札に戻り

自律行動ユニットを装備していたサンガは破壊され墓地に送られる

「そして、自律行動ユニットを発動

ライフを1500払いサンガを再び私の場に特殊召喚する」

自律行動ユニットをまた使うの！？

それだけで貴方のライフは残り1000よ！

「サンガでカイザーシーホースをスーガでヒゲアンコウを攻撃」

カイザーシーホースがサンガの雷で破壊され
ヒゲアンコウがスーガの水で流され破壊される……………シニールね

「私はサンダー・クラッシュを発動、私の場に存在する全てのモンスターを破壊し

その破壊した枚数×300ポイントのダメージを相手プレイヤーに与える、喰らえ」

「ぐはっ！」

悠の場のモンスターがすべて破壊され迷宮兄弟に900ポイントのダメージを与える

やっと迷宮兄弟にダメージを与えたけど残りが7100とまだライフが多い

「更に私は魔法カード、一時休戦を発動」

一時休戦？聞いたことがないカードね

「何だそのカードは？」

迷宮兄弟も知らないみたいね、試合場にいる皆が首を傾げる

「一時休戦の効果により、お互いにデッキからカードを一枚ドロースする」

えっ、それだけ？

「効果によりドロース……………面白いカードが来たな」

面白いカード？……………なんだか嫌な予感がするわ

「私は自分フィールドのカードと手札を全て墓地に送り、大逆転クイズを発動」

「「大逆転クイズ？」」

大逆転クイズ……………一体どんな効果だったかしら？

カードが発動すると悠の前にクイズ番組に出る回答席と帽子が現れた……………以外に帽子が似合っている様に見えるから、面白いわ

「このカードの効果だが、私のデッキの一番上のカードの種類を言い当てるカードだ

もし、私がカードの種類を当てた場合……………お互いのライフが入れ替わる」

「「何！？」」

お互いのライフの入れ変えて……………ちょっと待ちなさいよ！

悠のライフは1000で、迷宮兄弟の7100だから、正解したら……………ヤバいわ

だから自律行動ユニットを二回も使っていたのね

「ふん！だから、どうした言っただ」

「当たる確率は三分の一、ハズしたらお前のライフはたったの1000だ」

そつ、悠は間違えたらライフが1000のままで

フィールドと手札にはカードがない、間違えたら敗北はほぼ決定だ

「さて、私は魔法カードを選択する」

悠は悩むことなく宣言する

そして、悠がデッキを捲り出たカード……………

「……出たカードは天よりの宝札、魔法カードなのでお互いのライフは入れ替わる」

「「なっ!?!」」

悠の宣言した魔法カードが出たのでお互いのライフが入れ替わる

「ターンエンド」

悠は何もできないのでターンが終わる

「私のターン、ドロ……………!ハッハッハッ…これで貴様は終わんだ」

これで終わり?って、まさか……………!

「私の墓地にゲート・ガーディアンが存在する時
ライフを半分払い、デッキから闇の守護神ダーク・ガーディアン
を召喚する!」

迷宮兄弟の切り札、戦闘では破壊されない攻撃力3800のモンスター

「手札抹殺を発動したのは失敗だったな！ダーク・ガーディアンでダイレクトアタック
直接攻撃！」

ダーク・ガーディアンの斧が悠に当たりライフが残り3300に…
…なっていない

「ど、どういことだ！ライフが減っていないだど！？」

ダーク・ガーディアンの直接攻撃を受けたのにライフが減っていない

「ああ、言い忘れていたな、一時休戦はお互いにドロースる代わりに
次の相手のエンドフェイズまで戦闘及び効果ダメージを受けない
効果がある」

何よ、その効果！強すぎるでしょ！

「くっ、ターンエンドだ」

「私のターン、ドロ―！

（くっ、上級モンスターしかない）私はカードを二枚セットし、
ターンエンドだ」

よかったわ、今モンスターが出たら悠がダメージを受けるところだった

「私のターン、ドロ―

私は天よりの宝札を発動、お互いに手札が六枚になるようにドロ
ーする

手札から大嵐を発動し、魔法・罠カードを全て破壊する」

「わ、私のミラーフォースと魔法の筒が……………」

「更に地割れを発動、相手の場に存在する攻撃力が一番低いモンスターを破壊する」

私はこの効果で、闇の守護神ダーク・ガーディアンを破壊する」

「なっ！？ダーク・ガーディアンがこんなあっさりと……………」

ダーク・ガーディアンが足元が割れ破壊される

十代たちが苦労して倒したのにこうも簡単に……………」

「私は手札から武装転生を発動

武装転生は自分の墓地に存在する装備カードまたは装備モンスターとなって

モンスターに装備する効果を持つ罫カードを五枚選択して発動する
私は墓地に存在する黒いペンダント、風魔手裏剣、団結の力、魔術師の力

下剋上の首飾りをゲームから除外することで、その後、自分のフィールド上に

インクイップメントトークンを除外した枚数分特殊召喚する

このモンスターの攻守は500であり、それぞれ除外したカードの効果を得る」

これで終わりね…………トークンが一体でも十分なのに
団結の力の効果を持っているモンスターの攻撃力は4500よ？
元がレベル1のモンスターとはとても思えないわよ

「さて…………更に魔法カード、パワーコネクションを発動

自分フィールド上の元々の種族が二体以上一種類の場合に発動することができる

エンドフェイズまで、自分フィールド上の表側表示モンスターの攻撃力は

その種族と同じ種族の数×500ポイント攻撃力がアップする」

まさかの追い打ち！？

攻撃力3000のモンスターが二体と3500が一体に3700が一体

最後に攻撃力が6000のモンスターが一体……って、おかしいでしょ！

「行け、全モンスターで直接攻撃だ」
ダイレクトアタック

「ぐはあああああああ！！」

まさか、トークンだけで18700のオーバーキルをするなんて……想像できなかったわ

「ふうー……やっと、終わったか……疲れた、校長先生？もう、帰ってもいいですか？」

「ええ、構いませんよ、ご苦労様です」

「では、早速……あつ、そうだ」

悠が何か思い出したように迷宮兄弟に顔を向ける、何か言うのかしら？

「お前らに一つ言っておくが
大逆転クイズでの確立が三分の一と言っていたが……このデッキでは無理だぞ？」

「……………何？」

「……………どういうことだ？」

私も気になるわね、どういうことかしら？
会場にいる皆が気になっているのか悠に注目する

「このデッキは元々、魔法カードだけしか入っていないデッキなんだよ」

「何！？我々はそんなデッキに負けたと言うのか！」

……………嘘でしょ？魔法カードだけでデッキを構成するなんて
だけど彼はこの決闘で使っていたカードは全て魔法カードだった、
バトルをした時も
相手のカードを使っただけでモンスターカードなんて一枚も使っていない

その事実がわかったのか、迷宮兄弟は落ち込んだように決闘場を後にした

やっぱり強いわ、魔法カードだけで二人も相手にして勝つなんて
……………余計に彼に勝ちたくなってしまうわ

それには、もっと私は強くならないといけない

もっと決闘の勉強をしていつの日かまた戦ってみたいわ

）side悠）

いや）………楽しかった

オーバーキルをするのは久々だしな………できれば近いうちに、もう一度やりたいものだ

そういえば今日はこれだけで授業はなかったハズだから………

………よし、決めた

寮に戻って寝よう

最近、夜のイベントが多いから眠れなかったんだよ
今日は、ぐっすりと寝ることができるな

私は、心の中で決めると急いで寮に戻り眠った

第7話 制裁決闘（後書き）

久々に書いたのでちょっとキャラが壊れた感じがする

はあゝ……………次の話は何にしよう？

第8話 S A L?.....サルじゃん(前書き)

久々の投稿

今回の話は出すかどうか悩んだ挙句、出すことにしました

決闘はありません

第8話 SAL?……サルじゃん

＼side悠＼

「アウト!」

はあ………疲れる

今日の授業は体育だが………思ったよりも疲れるな?
しかも、野球だぞ? 打ったり投げたりするものだぞ?

………決闘と関係ないじゃん

更に、硬式ボールだぞ? 軟式だったらまだしも硬式は嫌だな
余計に疲れてしまう

対戦はオシリスレッド対ライエローの対抗試合だ
オベリスクブルーは体育をやっているのだろうか?
そこらへんはよくわからないな

私はボールが相手の手に飛んで行くように飛ばしたから
すぐにアウトになった、自分の番が早く終わるからな
デッキのことでも考えるか、暇だし

次の相手は………遊城か、こっちのピッチャーに
何か対抗心を燃やしているな………はて? ピッチャー誰だっけ?
ん………どうでもいいや、興味はないからな

勝負は遊城の敗北……つまらん

次に私たちが攻撃側となり、私は相手にボールを取られアウト
こちらのバッターが打ったボールがクロノス先生に当たる

あーあ、どうなっても知らんぞ

試合の結果は私たちの勝ちで終了した……やっと終わった
体育は疲れるから次の授業は寝るか……ふわぁ……

……

……

…

……ふわぁ……よく寝た

教室が騒がしいから途中で起きてしまった

とりあえず、状況確認する……

……万丈目が馬鹿にされている？それだけ？

……くだらない、もう一回寝よ

はぁ……暇だな……

今日の授業はつまらないから島をぶらぶらと歩いている
特に目的も無いが……授業に出るよりはマシだ
勉強はできる方だから大丈夫だろ……きつと

しばらく歩き崖に到着する

ここなら、いいだろう

私は持ってきた道具を簡単に組み上げて竿を作る

天気は晴れ、風は良好、波は穏やか……釣れるか？

完成した竿に餌を取りつけ海面に落とし、魚が喰いつくのを待つ

……

……

……

…

ピクッ

「ふんっ」

針が海面に沈んだと同時に私は竿を思い切り振り上げる

「中々の大きさかな？」

見た限り20cmの大きさの魚が釣れた、この辺りでは大きい方が
部屋でデッキを作るのもいいが偶には気分展開をするのもいいな
授業を抜け出し、レッド寮から離れた森の奥で釣りを楽しんでいる

「だいたいこのぐらいでいいかな？」

魚が思っていたより多く釣れたな……今日の飯にするか？

レッド寮は、半自給自足みたいなもんだから釣った魚を夕食にするのは珍しくない

「いや、むしろこの場で食べた方がいいか？」

魚は取れたてが美味いと言うが五、六匹は流石に多いしな……

ガサガサガサガサ

「……………誰だ」

後ろの茂が揺れる音が聞こえたので声を掛けてみるが返事がない……私と同じサボリの生徒か？

ガサガサガサガサ

私は後ろを振り返るがそこには誰もいない
だが、草を掻き分ける様な音が聞こえるので警戒を解かない

「（はて……この時期に何か有ったかな？）」

とりあえず、私は原作を思い出してみることにした

ええーっと、タイタン戦（仮）にタッグデュエルに……ん？

次なんだっけな？サイコシヨッカーの話だっけ？……思い出せん

「（声でも掛けてみるか……）おい、誰がいるんだろ？返事をしたらどうだ？」

シーンっと、何か虚しくなるよ

やっぱ誰もいないのか、だったら一度寮に戻るか？

焼いて食べようと思ったが道具を忘れてしまったしな

私が寮に向かって歩き出すと後ろから重い衝撃が襲ってきた

「ぐはっ！」

私は後ろからの不意な襲撃を喰らい

薄れていく意識の中、私は後ろを振り向いた

「お前かよ………」

私は、そこで意識を失った………

………

………

………

………

………

「うつ……………」

いっ……………体が少しだるい感じがするな

意識でも失っていたのか？私は？とりあえず体でも起こすか

私は草むらに前のめりになっていたので服に付いた草や砂を払って立ち上がった

「まったく、あのサル……………」

忘れていた、普通〴〵に忘れていたよサルの話

正確にはSALだっけ？どっちでもいいが、痛かったぞ！

あのサル、魚の入れたケースを倒して行きやがっな！

「くそっ！……………ん？」

おかしい……………いつもより、視界が広く、クリアに見えている気がする

いつもなら若干見えにくい物が今では鮮明に見えている

私はまさかと思いながら顔に手を近づけていく……………

「……………ない」

ない……………アレがない！

何処だよ！何処にあるんだよ！？

私は辺りを探すが見つからず、一つの結論が生まれた

「あのサルが……………！！！」

あのサルが盗んだ以外に考えられないという結論に……………！！

side 十代

俺、翔、明日香、ジュンコ、ももえは、万丈目を探している
何でも万丈目が島を出たって言う話がでたから俺と翔が探しに行こ
うとしたら

明日香たちに、行くなら自分たちも……って、いうことで今は一緒
に行動している

学校の裏側にある森で皆で万丈目を呼んでも返事がなかった
明日香が大声で呼んでも、鳥が驚いて飛んで行くだけ
だけど、近くの茂みから音がしたから近付いたら……

「ウキイ！」

茂みから出てきたのはサル……？
コイツ体に変な機械を付けてるな？それに、腕にデュエル盤を付け
てるし

しかも、襲っていきやがった！？

その後に黒服の奴らが現れたり
サルに襲われたときにジュンコが連れていかれたり
あ……もう！分わけわかんねえぞ！

とにかく俺たちはジュンコの悲鳴を頼りに後を追った

……

……

……

…

何とか追いついたけど、サルがジュンコを崖に生えている木に降ろして人質にしている、うかつに近寄れないぜ

「おい、あのサルは一体何なんだよ？」

「あのサルはデュエルが出来るように我々が教育し更には機械により反射神経を底上げしたのだ
その名もSuper Animal Learning……略してSALだ」

「まんまじゃん」

「言うなよ、翔……」

「博士」

「ん？すまん、つい口が滑ってしまった」

へっ……サルのデュエリストなんて、おもしれえじゃんか！

「なっ」だったら俺に「見つけたぞ！このサル野郎！」な、何だ！？」

声が出た方に全員が振り向くと、そこには整った顔立ちで、黒い髪が腰のあたり伸びており黒い服を着た……男？女？よくわからないけど、そんな奴がいた

「うわぁ……キレイっす」

「本当……あんな人いたかしら？」

「さぁ？私は知りませんわ」

「俺も知らないぜ、あんな奴」

一応、男子のイエローの制服が腰にあるからイエローの男子か？

「此処にいやがったか……！」

何か知らないけどコイツもあのサルに対して何か怒ってるな

「さっさと私のアレを返しやがれ！」

アレ？あのサルに何か盗られたのか？

男子生徒はサルにどんどんと近付いて……って、ちょっと待て！

「おい、止まれ」

俺はそいつの肩を掴んで前に行かせないようにする

これ以上近付いたら、人質になっているジュンコが危険な目に遭うかもしれないからだ

だけど、肩を掴んだ瞬間に俺の視界が回った

「どわぁー！」

「……十代（兄貴）！」「……」

「邪魔をするな」

肩を掴んだ時に投げられたみたいで地面に倒れていた

「いててて……ちょっと、待ってくれよ」

「あ？」

機嫌が悪すぎだろ！怖！何を盗られたんだよ！

「俺があの子と決闘するからさ、ちょっと待ってくれよ」

「知るか」

男は俺の話を聞かずどんどんとサルに近付いて行く、だから待ってくれよ！

「もう少し話を聞いてくれよ、あのサルはジュンコを人質にしているんだ

ジュンコを助けるついでにお前の物も返してくれるように頼んでやるから……な？」

「ふむ………」

男は考える仕草をとり、辺りを見渡す

「……………」
「いいだろう」

返事の間、長！

「サンキュー、いくぜサル！

俺が勝ったらジュンコとコイツが言っている……アレって何？」

「教えん」

「あゝそう？……とにかく！こいつから盗ったアレを返してもらおうぞ！」

「負けたらどうするのよ？」

「負けたら……えっと……」

やべ、全然考えてなかった

「えゝっと、そうだ！俺が負けたらサル、お前は自由だ！」

「そんなゝ！？意味分かんないわよゝ！？」

「心配するなジュンコ、俺は絶対に勝つ」

俺の言った言葉にサルはしばらく考えると

ジュンコを崖に生えている木に降ろして、岩の上に乗リデュエル盤を構えた

よっしゃ！サルと決闘するなんて初めてだぜ！

「いくぜ！……決闘！」

……

………

………

………

…

「よっしゃー！勝ったぜ！」

俺は何とかサルと決闘をして、勝利することが出来た

「さあ、約束だ

ジュンコとこいつから盗った物を返してくれ」

「ウ…………ウキィ」

サルはジュンコのいる木まで行くと

ジュンコを抱え、安全なところで降ろしてくれた

「サル、私から盗ったアレを返せ」

サルはこいつから盗った物を出した、何か白いな…………何だろ？

「ウ…………ウキィ！」

サルは何を考えたのか盗った物を森の方へと投げた…………何をやってんだ！？

「あつ、このバカ！」

男は、それが余程大事なのかサルが飛ばした方へと走って行った
アイツ足が速いなあ……………もう姿が見えないぜ

その後、サルは大徳寺先生のおかげで無事解決することができ
サルは機械を外して、仲間のところに帰って行った
忘れていたけど万丈目は島を出ていった、あいつならきつと戻って
くる

……………そういえば、アイツって一体誰だったんだ？

side悠

はあ、はあ……………あのサルが！

思いつ切り遠くの方へ飛ばしやがったな！
探すのに一時間以上掛かったじゃないか！

起きた後に森に入ってすぐに見つけたが、すぐ逃げる
なので、罾や先回りしたのに捕まえることができなかった
苦し紛れに尻尾を掴んだんだが……………もしかして、あのサルが怒っ
ていた原因はそれか？

とりあえず、私はサルが投げた仮面を手に取り
汚れをタオルで落とす、ここら辺は草が柔らかいのかあんまり汚れ

ておらず

叩くだけで汚れはすぐに落ちた

綺麗にした仮面を顔に付ける……………落ち着くな

これがないと調子が良くない上に言葉も乱暴になってしまう
今後は盗られないようにしないといけないな

さて、寮に戻ってデッキ作りでもするか

今から学校に行っても間に合わないからな

時間も昼過ぎてるし、腹が減った……………早く戻る

「さてと……………」

……………今思ったが重要なことを忘れていた

サルが投げた仮面を追いかけて走ったが……………

「……………此処は何処だ？」

私が現在、何処にいるのかわからなくなってしまった……………迷子だ

その後、寮に辿り着いたのは夜の七時

こんな時に方向音痴が発動する自分がとても嫌いだ！

……………夕食の鯖の味噌煮がとても美味しかったと言っておこう

第8話 SAL?.....サルじゃん(後書き)

.....どうですか？

今回の話はあんまり自信がありませんでした
おもしろかったら嬉しいです

第9話 嫌いな奴にはオーバーキル（前書き）

今回の話

注意：主人公が再び壊れました

今回もアニメオリジナルカードを使います、作者のお気に入りです

第9話 嫌いな奴にはオーバーキル

＼side悠＼

SAL事件（勝手に命名）から、夏休みに突入！……特に何もなしの後も特に何事も無くいつも通りな日々が続いたそして、冬休みに突入！……これも特に何もなし

冬休みはサイコショッカーの話があつたがメンドイのから家に帰った、特に何もすることはないけどな

冬休みも終わり、再び授業が始まる

元の精神年齢が高い自分にとっては簡単な授業だ

そして、体育の授業も季節が変わること………

「寒つ………」

何で、冬休み明けの体育の授業がテニスなんだよ！？

格好としては、いつもの仮面に体操服姿の自分は後ろ髪を縛り束ねていた

動くたびに髪が視界を遮ることもあり、うまくテニスができない

パソコン！

ん？

「ぐべらあっ！？（ドスン）」

「……………」

…………… 何で音がした方向に振り返ったら、クロノス先生が倒れて
いるんだ？

しかも、顔にテニスボールの痕がるし、痛そゝ……………

……………

……………

……………

…

そんなこんなで授業が終わり、ただいま寮でデッキ作り
試験用にもう一つのデッキの作成中である

メインキャラ以外はこのデッキで相手をする予定（仮）

とりあえず……………

「誰か状況を説明してくれないか？」

何故、私がテニス場にいるんだ？

「悪い、あと頼むわ」

連れてきた本人が何を言っている！

「はっはっはっ！君が神戸君か！よく来たな！

さあ、明日香君とのフィアンの座を賭けて僕と決闘だ！」
デュエル

「いきなりすぎて話がわからん！誰か説明しろ！」

何“君と握手”的な感じで決闘！デュエルって言っているんだ、この人は！

「行くぞ、決闘だ！」
デュエル

「話を聞けよ！」

何故か離れた場所に天上院、遊城、丸藤と天上院の取り巻き二人
天上院よ嫌なら嫌とハッキリと言えればいいのに、何故言わないのか
わからん

他の奴らは決闘を楽しみにしているみたいだ、少しは止めようと思
えよ！

「どうした？早く決闘盤を構えたらどうだ？」
デュエル・ディスク

それに君みたいな変な仮面を付けている人に僕は負けない！」

……………あ？

「……………変な仮面だと？」

よし決めた、コイツは手加減なしで本気で倒す！
ガチ
お互いにデッキを決闘盤に差しこみ構える
デュエル・ディスク

「決闘！」
デュエル

Side 明日香

悠は大丈夫かしら？

相手の実力は亮に勝るとも劣らない決闘者よ^{デュエリスト}

悠が勝てるかどうか心配ね……ん？何で私が悠の心配をしているのかしら？

「先行は僕のターン、ドロー！

僕は手札から魔法カード、サービスエースを発動！

このカードは僕が選んだカードを相手はそのカードの種類を当てる
モンスターか魔法か罠「モンスターで」って、ちょっと早くない
かい！？」

まさかの説明の途中で即答！？早すぎるわよ、考えてるの！？

「どうした？宣言したんだからカードを見せろ」

「も、もう少し考えてみたらどうだい？まだ、説明の途中で言っ
てなかったけど

「間違えたら1500ポイントのダメージを受けるんだろ？知って
いるから早くしろ」

……ぼ、僕が選んだカードはメガ・サンダー・ボールよってカード
は墓地に送られる」

すごいわね、もしかして知っていたのかしら？そんなわけないわよ
ね？

「僕はカードを一枚伏せて、ターンエンドだ」

「私のターン……ドロー」

私は強欲な壺を発動、デッキからカードを二枚ドローする
手札から天使の施しを発動、デッキからカードを三枚ドローし二枚捨てる

更に壺の中の魔術書を発動し、お互いにデッキからカードを三枚ドローする」

「はっはっは、僕に三枚もドローさせてくれるなんて、いいのかな？」

確かテニス部の……誰だったかしら？確か部長だってことは覚えて
いるけど忘れたわ

部長が悠の仮面を変な仮面って言った辺りで悠の雰囲気が変わって
何だか怒っている様に見えるわ、しかも始めから手札が九枚ってお
かしいわよ！

「私はガトリング・オーガを召喚」

悠の場から鬼が現れ、お腹の方にガトリングが装着されている……
ちよっとシニールね

「先にガトリング・オーガの効果を教えてやろう

ガトリング・オーガは自分の魔法・畏ゾーンにセットされている
カードを

墓地に送ることで相手プレイヤーに800ポイントのダメージを与
える」

「何！？つまり君の手札に魔法・畏カードが五枚以上あったら……」

五枚以上あったら4000ポイントのダメージは確実

ワンターンキルが可能なモンスター……！なんて凶悪なモンスターなの！

「ちなみに手札には魔法・罠カードは五枚以上……ある」

ワンターンキル！？

「まさか、この僕が……」

部長の方は既に諦めモード早いわね

「だが、まだ効果は使わん」

「え？」

え？使わないの？

「私は手札からダブル・アームズをガトリング・オーガに装備」

悠が発動したカードの効果でガトリング・オーガのガトリングの数が一つ増えた

「ダブル・アームズは装備モンスターの効果によって相手プレイヤーに与える

ダメージが倍になる効果だ、つまりガトリング・オーガが相手に与えるダメージは

800ポイントから倍の1600ポイントになる」

与える効果ダメージが倍に！？

「手札からエボリューション2《ツ》を発動

このカードは自分フィールド場に存在する装備カードの効果を倍にする

この効果によりダブル・アームズの効果を倍にする、更にもう一枚エボリューション2《ツ》を発動し、ダブル・アームズの効果を再び倍にする

手札からサイクロンを発動、相手の伏せカード一枚を破壊する」

「ぼ、僕のレシーブエースが……」

「次に魔法石の採掘を発動、手札を二枚墓地に送ること

自分の墓地から魔法カードを一枚手札に加えることが出来る

この効果により墓地からエボリューション2《ツ》を手札に加え発動

ダブル・アームズの効果を倍にする、カードを二枚伏せ

今セットした天よりの宝札を発動しお互いに手札が六枚になるようドローする

手札から二枚目のダブル・アームズをガトリング・オーガに装備する

効果によって相手に与える効果ダメージが倍になる

更に鳳凰神の羽根を発動する

手札を一枚捨て、墓地に存在する天よりの宝札をデッキの一番上に戻す

カードを一枚セットし、エボリューション2《ツ》を発動、そして速攻魔法

連続魔法を発動する、このカードは自分の通常魔法発動時に発動できる自分の

手札を全て墓地に送ることこのカードの効果はその通常魔法と同じ効果になる

私の手札は一枚、よってコストを払うことが出来る

連続魔法は効果によってエボリューション2《ツ》と同じ効果になり

ダブル・アームズの効果を二倍にする」

「ちょ、ちょっと！何だかガトリング・オーガが大変なことになってるわよ！？」

悠がエボリューション2《ツ》を発動するたびにガトリング・オーガの

ガトリングの数が倍になっていき、今ではガトリングの数が……多すぎるわよ！？

ガトリング・オーガが苦しそうじゃない！

「ん？……ホントだな、いつのまにかガトリングの数が128個になっっているな」

「注目する場所はそこじゃないでしょ！？」

何で冷静に数を数えているのよ！

「ちなみガトリング・オーガによる効果ダメージは

倍の倍の倍の倍の倍の倍の数となる、一体いくつでしょうかな？」

800の倍の倍の倍の倍の………数えてたら頭がおかしくなりそうだわ

「翔、わかるか？」

「そんなすぐに、わかるわけないっすよ！」

そこまでキレイなくてもいいんじゃない、翔君？

「答えは128倍……800の128倍なので、与えるダメージは102400ポイント」

「…………じゅ、十万ポイント!?」「…………」

じゅ、十万ポイント……明らか効果ダメージの数値じゃないわよね？

「明らか効果ダメージの量を超えているだろ!?4000を超えた辺りでやめてよ!」

「4000を超えた辺りでやめろ?……………フッ」

今、部長のことを鼻でわらった!?

「やめるわけないだろ……………私はアンタが許せないんだ」

「僕が許せない?どういうことだ?」

「自分が言ったことをよく思い出せ」

部長が言ったこと?確か……………

“明日香君とのフィアンの座を賭けて僕と決闘だ!”
デュエル

「……………」

「……………明日香さん?」

「な、何か用？もえ？」

「……いえ、何でもないです（明日香さんの顔が赤いですわ、まさか恋ですか！？）

「？」

変なもえ、何も用がなかったのかしら？

「わからないなら教えてやろう、それは……」

「くくくく（ゴクッ……）」「くくく」

悠の発言に息を吞んで待つ私たち、何だか胸がドキドキと……

「……私の仮面を馬鹿にしたからだ！」

ガクッ
× 5

……胸のドキドキがなくなった

「貴様は私が付けている仮面を侮辱した

そして、その侮辱は万死に値するほどの罪だ！」

「何故さ！？」

無茶苦茶ね、そんなに仮面を馬鹿にされるのが嫌なのね

「よって、貴様は徹底的に叩き潰すつもりである

私はガトリング・オーガの効果でセットしてある自分のカードを墓地に送り

102400ポイントのダメージを与える！やれ、ガトリング・オーガ！」

ガトリング・オーガは効果を発動すると、右手のハンドルを回し…

……

ダッダッダッダッ！×128

「ガバッ！グハッ！ベハッ！」

……ガトリングが全弾、部長に命中した……本当にソリッド・ビジヨンよね？

「そんな……僕がオシリスレッドごときに「ほら、もう一つおまけだ」？」

ガトリングを撃ち終わると部長の場にペンダントが落ちた、あれは何かしら？

部長も気になったのか持ち上げるとペンダントが光って……爆発！？

「そのペンダントは黒いペンダントという装備カードだ

そのカードは墓地に送られると相手に500ポイントのダメージを与える

……まさか、爆発するとは思わなかったがな」

誰もペンダントが爆発するなんて思わないわよ！

しかも98400に更に500ポイントの追加で98900のオーバークルなんて

……とても出せない数値ね

「初めて見たぜ、あんなオーバーキル！くっく！俺も戦いたいぜ！」

「九万越えのオーバーキルなんて滅多にないっすからね」

十代は今の決闘デュエルを見たせいかうずうずしていて

翔君は悠が出したオーバーキルの桁に素直に驚いていた

「ふんっ！どうせ、何か卑怯な手を使ったに決まっているわ」

「ジュンコさん、そう言わずに……」

ジュンコは悠の決闘デュエルが嫌いなものね……抑えるももえも大変よ

「そんな……僕が、僕が負けるなんて……」

「事実だ、受け入れろ」

受け入れなければ……もう一度、悪夢を見せさせるぞ？」

「うっ……うわああああああああん！！」

「三年生なのに泣いて逃げるか？変な人だ」

「泣かした本人がそれを言うの！？って、ちょっと何処に行ってるの！？」

「寮に帰るだけだ」

それはわかるけど……えっと、その……

「ちょっと待ちなさい、榊戸悠！」

せっかく明日香さんのフィアンセになれるチャンスなのに放棄するつもり！」

「ちょっと、ジュンコ！？一体何を……」

「そうですね、殿方ならハッキリと言うべきですわ！」

「ももえまで！？」

二人して一体何を言ってるの！？別に私は……

「はあ……ハッキリとっておくが私は天上院のことは何とも思っていない

それに、決闘で勝手にフィアンセなんて貰っても嬉しくないだろう？
そういうのは自分の意志で決めるものだ、勝手に決めるものじゃない

まっ、そういうわけだ……じゃあな」

「ちょ、ちょっと待ちな……」

ジュンコが止めようとするけど無視して去って行く

今のって私が構わなかったら別にいいってこと！？
けど、私に興味はないって言ってたし……あーもう、わからないわ！

十代は翔君にフィアンセの意味を訊いているし
ジュンコは怒って、ももえは悩んでいたりした

取り残された私は複雑な感情をどうしたらいいのかわからなかった

第9話 嫌いな奴にはオーバーキル（後書き）

この話は早く書きたかったです

ガトリング・オーガは月一試験のモブキャラ相手に使う予定
あと、嫌いなキャラにも殆どこのデッキで戦う予定です

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8167v/>

仮面の決闘者

2011年11月14日14時34分発行